

令和7年度

大学教育の成果に関するアンケート調査結果

令和8年9月
星槎道都大学 IR監査室

【調査目的】

本学のアセスメント・プランに基づき、PDCAサイクルの循環として、令和4年度卒業生の学修成果を検証し、教育改善を図るためアンケート調査を実施した。

【調査構成】

本調査は、以下の2つの調査から構成される。

- I. 卒業生に対する大学教育の成果に関するアンケート調査
- II. 就職先企業等に対する大学教育の成果に関するアンケート調査

I 卒業生に対する大学教育の成果に関するアンケート調査

【調査概要】

- (1) 調査方法 … 郵送依頼、WEB回答 (Microsoft Formsを使用。)
- (2) 調査実施時期 … 令和8年8月3日(月)～8月31日(月)
- (3) 調査対象 … 令和5年度卒業生(令和5年9月卒業、令和6年3月卒業)
- (4) 対象人数 … 対象人数:188人(※外国人留学生、案内が未着であった卒業生を除く)
- (5) 回答数・回答率 … 回答数:46人 回答率:25.1%

【調査項目一覧】

- Q1 所属していた学科を教えてください
- Q2 現在の職業(業種)を教えてください。
- Q3 大学全体の学びにおけるスキルの身につけ度・役立ち度について
 - (1) 大学全体の学びにおけるスキルの身につけ度 … (全13問 4択)
 - (2) 所属していた学科での学びにおけるスキルの役立ち度 … (全13問 4択)
- Q4 所属していた学科での学びにおけるスキルの身につけ度・役立ち度について
 - (1) 所属していた学科での学びにおけるスキルの身につけ度
経営学科…(全14問 4択) ・ 社会福祉学科…(全16問 4択) ・ デザイン学科…(全13問 4択) ・ 建築学科…(全13問 4択)
 - (2) 大学全体で身につけられるスキルの役立ち度
経営学科…(全14問 4択) ・ 社会福祉学科…(全16問 4択) ・ デザイン学科…(全13問 4択) ・ 建築学科…(全13問 4択)
- Q5 卒業後の経験を踏まえ、星槎道都大学の教育内容についてどのように感じていますか。… (4択)
- Q6 現在のキャリアと、本学での学びの関連について教えてください。… (4択)
- Q7 星槎道都大学の学生生活についてどのように感じていますか。… (4択)
- Q8 星槎道都大学に対するご意見やご要望等がありましたらご入力ください。… (自由回答)

【結果報告】

- Q1 所属していた学科を教えてください
- Q2 現在の職業(業種)を教えてください。

	総計	%	経営学科	社会福祉学科	デザイン学科	建築学科
農業	1	2.2%		1		
建設業	7	15.2%	1			6
製造業	1	2.2%			1	
情報通信業	4	8.7%	1		3	
卸売・小売業	4	8.7%	1		3	
金融・保険業	2	4.3%		2		
教育・学習支援業	4	8.7%	1	3		
医療・福祉複合サービス事業	8	17.4%		8		
サービス業<他に分類されない>	10	21.7%	4	4	2	
公務<国家・地方>	4	8.7%	2	1		1
その他	1	2.2%		1		
総計	46	100.0%	10	20	9	7

Q3 大学全体の学びにおけるスキルの身につき度・役立ち度について

(1) 大学全体の学びにおけるスキルの身につき度

大学DPで示す能力に関して、身につき度を把握するための調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

・以下の大学DPに対応する13質問項目を設定している。

1. 主体性 (DP1)	2. 多様性受容 (DP1)	3. 共生社会実現への意識 (DP1)	4. 専門知識 (DP2)	5. 専門技能 (DP2)
6. 幅広い教養 (DP3)	7. 論理的思考力 (DP4)	8. 分析力 (DP4)	9. 問題解決力 (DP4・DP5)	10. 表現力 (DP5)
11. コミュニケーション能力 (DP5)	12. 協働力 (DP5)	13. 社会課題・地域課題への関心 (DP5)		

- ・回答項目は「身についた」「やや身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「身についた」及び「やや身についた」の合計割合)を用いて、大学DPで示す能力の修得状況を分析する。

<参考:星槎道都大学ディプロマポリシー>

DP1. すべての人々が共生する社会の実現に資する意志や態度。

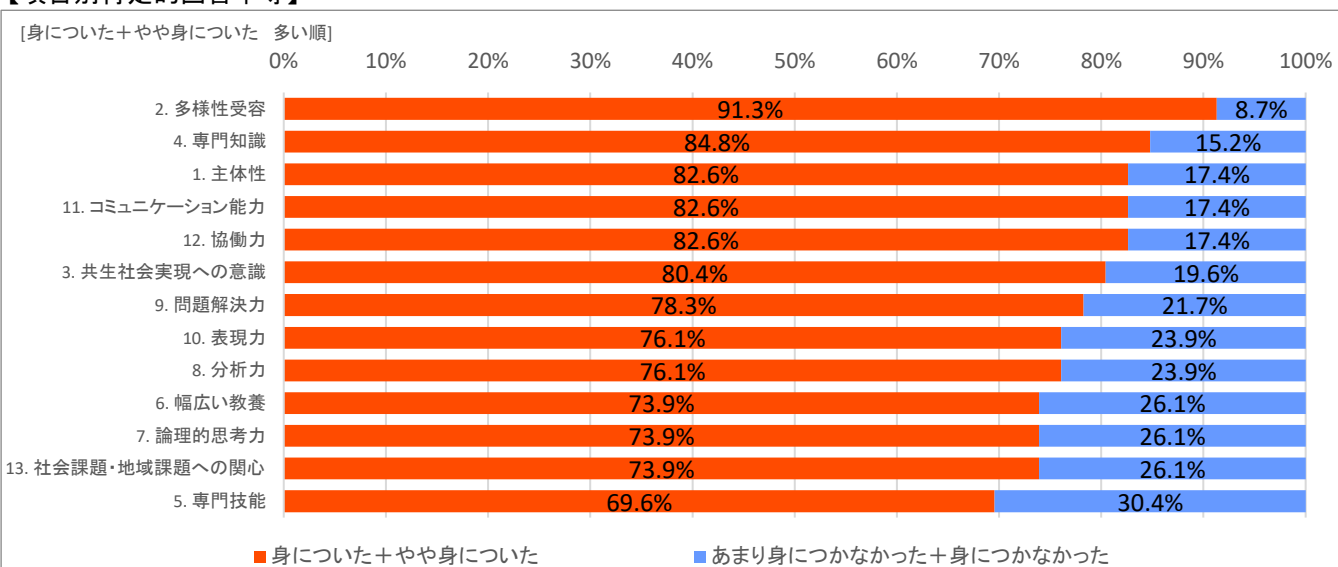
DP2. すべての人々が共生する社会の基盤となる専門分野における知識、技能およびこれらを実践的に活用する能力。

DP3. すべての人々が共生する社会で必要となる教養。

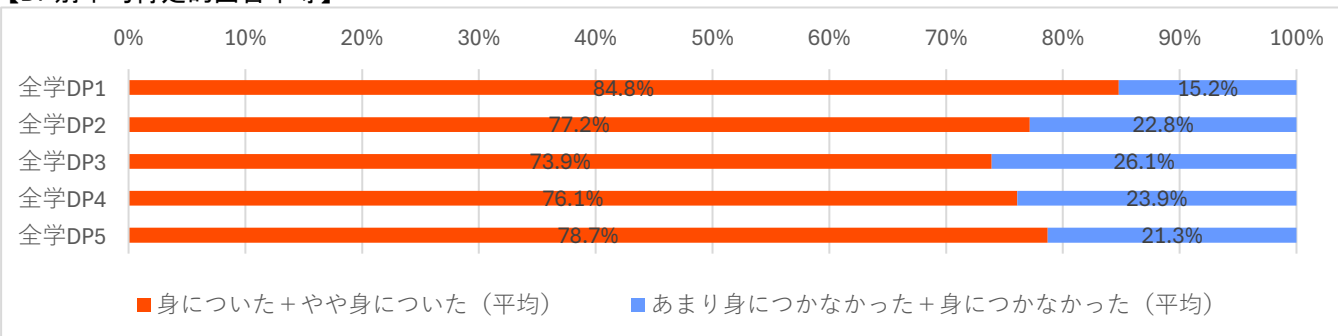
DP4. 課題探求能力をもって自ら問題を発見し、論理的に思考し、解決に導く態度。

DP5. 身のまわりや地域にある様々な問題に関心を持ち、自己の意見を的確に表現するとともに、自らの責任を自覚し、問題解決のためにすべての人々と協働することができる態度。

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

調査の結果、大学DPに対応する13項目の肯定的回答率は69.6%~91.3%となり、多くの卒業生がDPで示される能力を身につけたと認識していることが確認された。項目別では「多様性受容」が最も高く、「主体性」「コミュニケーション能力」「協働力」も高い評価を得た。「専門技能」「幅広い教養」等は相対的に低い傾向がみられたものの、いずれも約7割の肯定的回答率を確保していた。

また、DP別平均肯定的回答率は73.9%~84.8%で推移しており、特にDP1(共生社会の実現に資する意志や態度)に関する評価が高かった。

以上のことから、本学の教育活動はディプロマ・ポリシーで示す能力の育成に概ね寄与していると考えられる。

(2) 大学全体で身につけられるスキルの役立ち度

大学DPで示す能力に関して、役立てることができたかを把握するための調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・大学DPに対応する以下の13個の質問項目を設定している。

1. 主体性 (DP1)	2. 多様性受容 (DP1)	3. 共生社会実現への意識 (DP1)	4. 専門知識 (DP2)	5. 専門技能 (DP2)
6. 幅広い教養 (DP3)	7. 論理的思考力 (DP4)	8. 分析力 (DP4)	9. 問題解決力 (DP4・DP5)	10. 表現力 (DP5)
11. コミュニケーション能力 (DP5)	12. 協働力 (DP5)	13. 社会課題・地域課題への関心 (DP5)		

- ・回答項目は「とても役立っている」「ある程度役立っている」「あまり役立っていない」「役立っていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「とても役立っている」及び「ある程度役立っている」の合計割合)を用いて、大学DPで示す能力の活用状況を分析する。

<参考: 星槎道都大学 ディプロマポリシー>

DP1. すべての人々が共生する社会の実現に資する意志や態度。

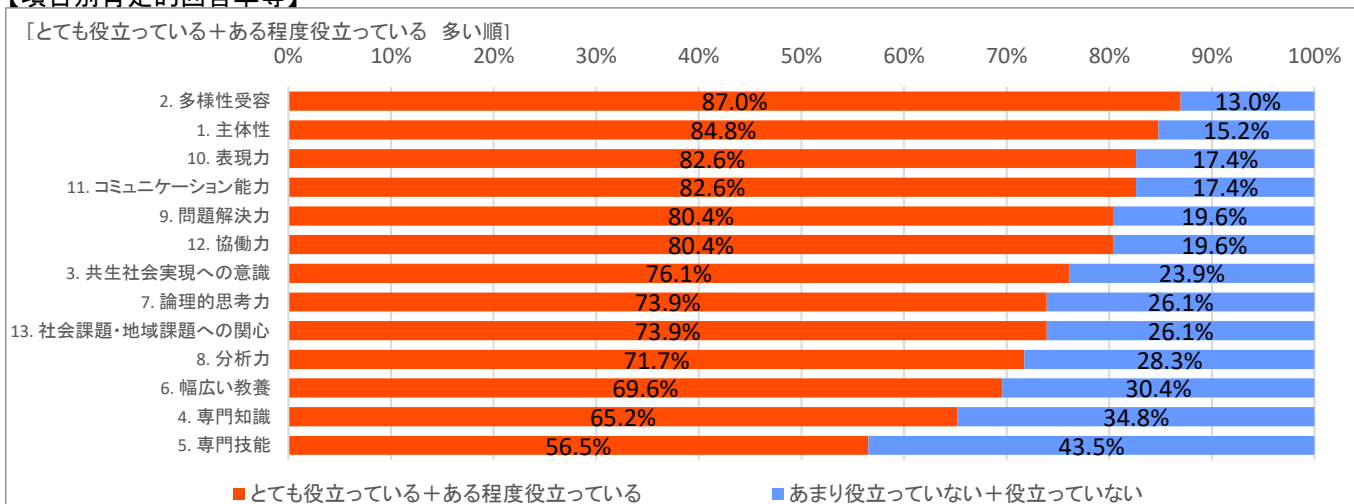
DP2. すべての人々が共生する社会の基盤となる専門分野における知識、技能およびこれらを実践的に活用する能力。

DP3. すべての人々が共生する社会で必要となる教養。

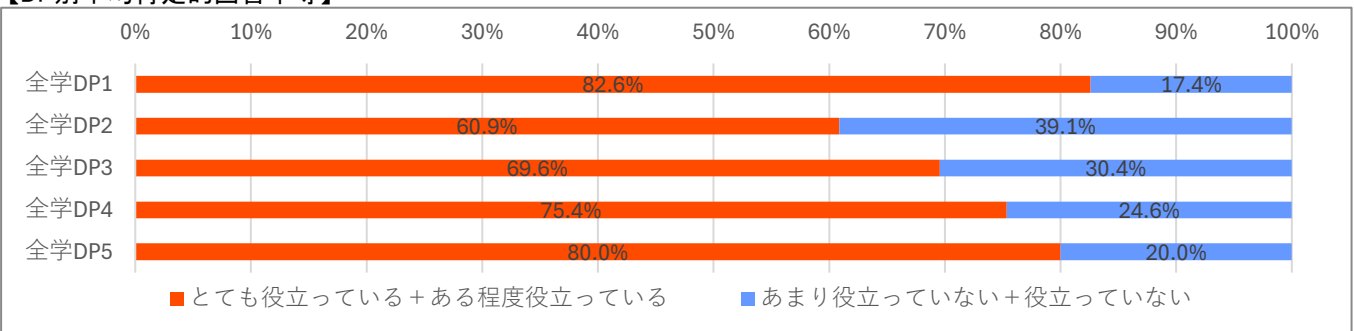
DP4. 課題探求能力をもって自ら問題を発見し、論理的に思考し、解決に導く態度。

DP5. 身のまわりや地域にある様々な問題に関心を持ち、自己の意見を的確に表現するとともに、自らの責任を自覚し、問題解決のためにすべての人々と協働することができる態度。

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

大学DPに対応する13項目の肯定的回答率は56.5%~87.0%となり、多くの卒業生が本学で身につけた能力を卒業後に役立てていると認識していることが確認された。項目別では、「多様性受容」が87.0%と最も高く、「主体性」「表現力」「コミュニケーション能力」についても高い評価が得られた。一方、「専門知識」及び「専門技能」は相対的に低い傾向がみられた。

DP別平均肯定的回答率では、DP1(82.6%)及びDP5(80.0%)が高い評価を得ており、本学が重視する共生社会の実現に向けた態度や協働に関する能力が卒業後に活用されていることがうかがえる。一方、DP2(60.9%)は他のDPと比較して低い結果となった。また、「身につiki度」(※2P参照)ではDP2の肯定的回答率が77.2%であったのに対し、「役立ち度」では60.9%となっており、修得したと認識している専門知識・専門技能が卒業後に十分活用されているとは感じていない卒業生も一定数存在することが示唆された。

以上のことから、本学の教育活動はディプロマ・ポリシーで示す能力の育成及び卒業後の活用に概ね寄与しているものの、専門分野における知識・技能と卒業後の実践との接続については継続的な検証が必要である。

Q4 所属していた学科での学びにおけるスキルの身につつき度・役立ち度について

(1) 所属していた学科での学びにおけるスキルの身につつき度

学科DPで示す能力に関して、身につけることができたかを把握するための調査。

【経営学科】

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

経営学科…(全14問)

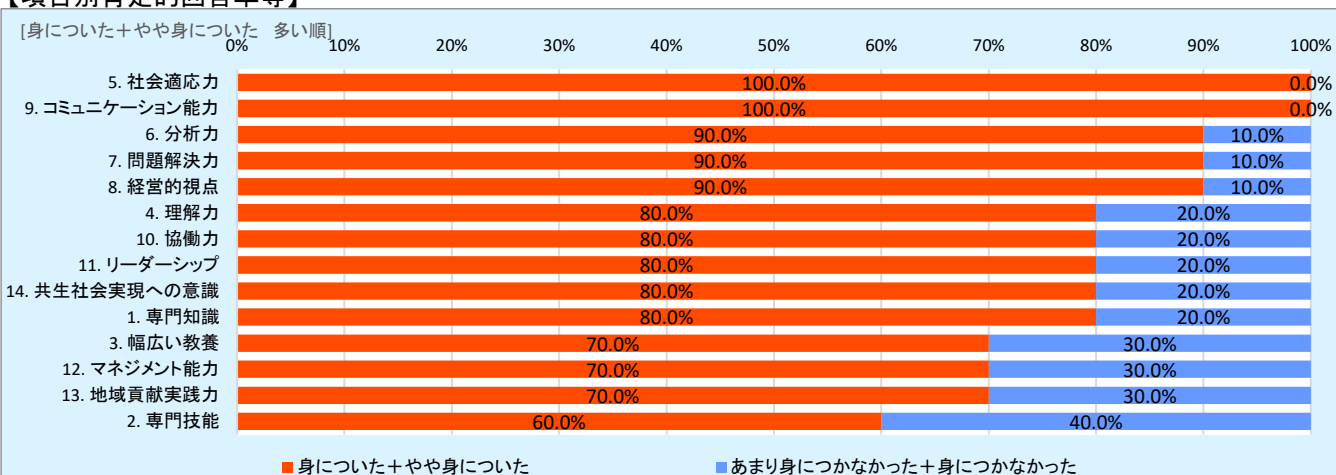
1. 専門知識(DP1・DP2) 2. 専門技能(DP1) 3. 幅広い教養(DP2) 4. 理解力(DP1) 5. 社会適応力(DP1)
6. 分析力(DP3) 7. 問題解決力(DP3) 8. 経営的視点(DP3) 9. コミュニケーション能力(DP4) 10. 協働力(DP4・DP5)
11. リーダーシップ(DP4) 12. マネジメント能力(DP5) 13. 地域貢献実践力(DP5) 14. 共生社会実現への意識(DP2)

- ・回答項目は「身についた」「やや身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「身についた」及び「やや身についた」の合計割合)を用いて、経営学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

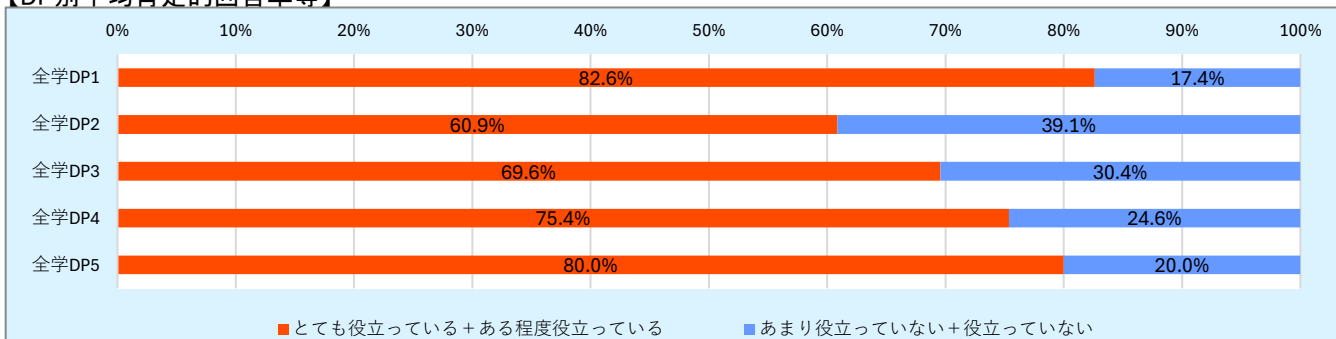
<参考: 経営学科 ディプロマポリシー>

- DP1. 社会の要請に応える人材として、経営に関する知識や技能を獲得し、社会の現実に即応できるよう、基礎から応用までを俯瞰的に理解している。(知識・技能)
DP2. 共生社会の実現に寄与できる人材として、経営の専門的な知識のみならず幅広い教養を体得している。(知識・技能)
DP3. 企業等の組織および社会が抱える課題を経営学の視点から分析し、解決策を構築する能力を身につけている。(思考力・判断力・表現力等)
DP4. 所属する組織の目的実現に必要なリーダーシップとコミュニケーション能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
DP5. スポーツや地域のイベント、ボランティア活動などを通じて地域社会の発展に貢献するためのマネジメント能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

経営学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は60.0%～100.0%となり、多くの卒業生が学科DPで示される能力を身につけたと認識していることが確認された。項目別では、「社会適応力」及び「コミュニケーション能力」が100.0%と最も高く、「分析力」「問題解決力」「経営的視点」についても高い評価が得られた。

また、DP別平均肯定的回答率も60.9%～82.6%となっており、中でもDP1及びDP5が比較的高い評価となっており、経営に関する知識・技能に加え、地域社会に関わる活動を通じて培われる能力についても一定の修得実感が示された。

以上のことから、卒業生の自己評価からは、学科DPで示す能力が概ね身についたと認識されており、特に経営学的視点による課題分析・課題解決能力やコミュニケーション能力等について高い修得実感が示された。これらの結果から、経営学科の教育活動は学科DPで示す能力の育成に概ね寄与していることが確認できた。

【社会福祉学科】

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・学科DPIに対応する以下の質問項目を設定している。

社会福祉学科…(全16問)

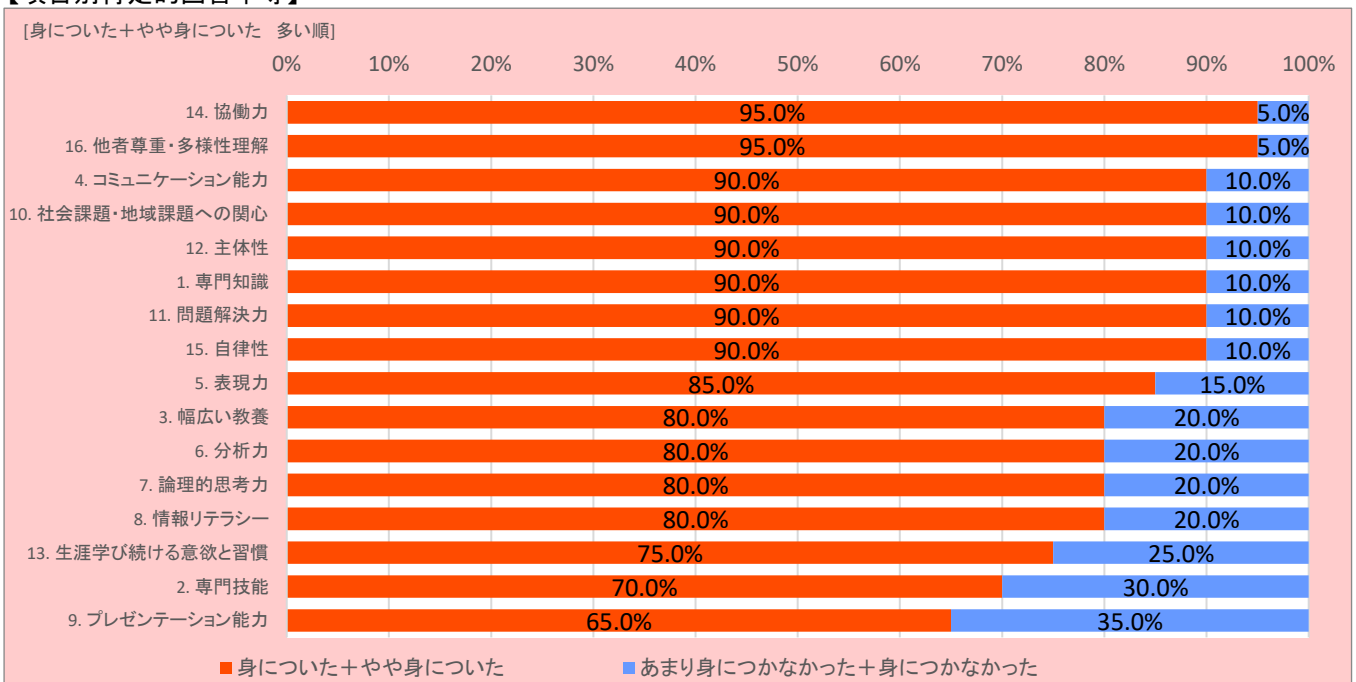
1. 専門知識(DP1)	2. 専門技能(DP1)	3. 幅広い教養(DP2)	4. コミュニケーション能力(DP3)	5. 表現力(DP3)
6. 分析力(DP3)	7. 論理的思考力(DP3)	8. 情報リテラシー(DP3)	9. プレゼンテーション能力(DP3)	
10. 社会課題・地域課題への関心(DP4)	11. 問題解決力(DP4)	12. 主体性(DP5)	13. 生涯学び続ける意欲と習慣(DP5)	
14. 協働力(DP6)	15. 自律性(DP6)	16. 他者尊重・多様性理解(DP7)		

- ・回答項目は「身について」「やや身について」「あまり身についていない」「身についていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率（「身について」「やや身について」の合計割合）を用いて、社会福祉学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

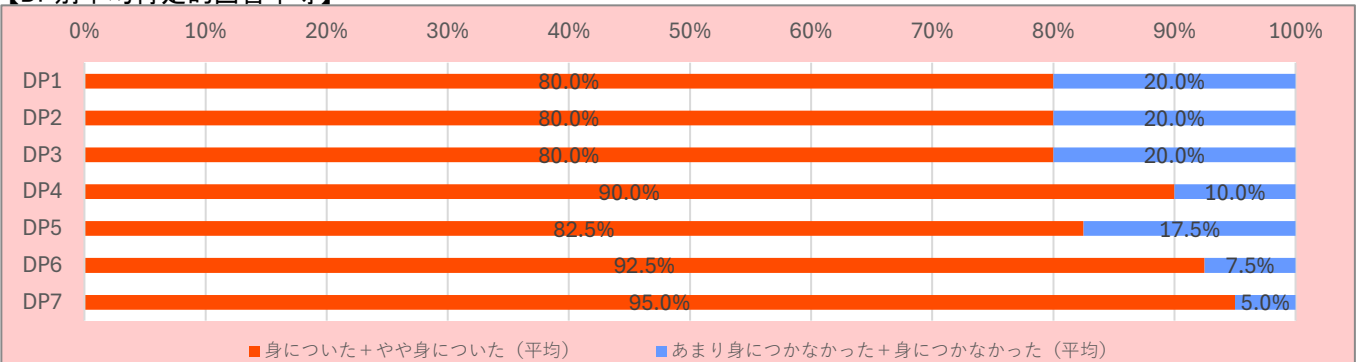
＜参考：社会福祉学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	ソーシャルワークの基礎知識や基本技能を修得し、それらを関連づけて体系的に理解していること。（知識・技能）
DP2.	共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語、健康などに関する幅広い教養を身につけていること。（知識・技能）
DP3.	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報リテラシー及び知識や情報を複眼的・論理的に分析し表現できる能力を身につけていること。（思考力・判断力・表現力等）
DP4.	現代社会や地域が抱える課題に気づき、それらの解決に果敢に立ち向かう能力を身につけていること。（知識・技能）（思考力・判断力・表現力等）
DP5.	生涯学び続けるための意欲と学習する習慣を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
DP6.	自らを律し、他者と協調・協働して行動ができること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
DP7.	人の尊厳を重んじ、豊かな人間性を尊重できる態度を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

社会福祉学科における学科DPIに対応する各能力の肯定的回答率は65.0%～95.0%となり、多くの卒業生が学科DPで示される能力を身につけたと認識していることが確認された。項目別では、「他者尊重・多様性理解」及び「協働力」が95.0%と最も高く、他項目についても高い評価が得られた。

また、DP別平均肯定的回答率は80.0%～95.0%で推移しており、中でもDP6及びDP7が高い評価を示した。

以上のことから、卒業生の自己評価からは、学科DPで示す能力が概ね身についたと認識されており、特に、他者との協働や他者尊重・多様性理解、地域や社会の課題解決に関わる能力について高い修得実感が示された。

これらの結果から、社会福祉学科の教育活動は学科DPで示す能力の育成に概ね寄与していると考えられる。

【デザイン学科】

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

デザイン学科…(全13問)

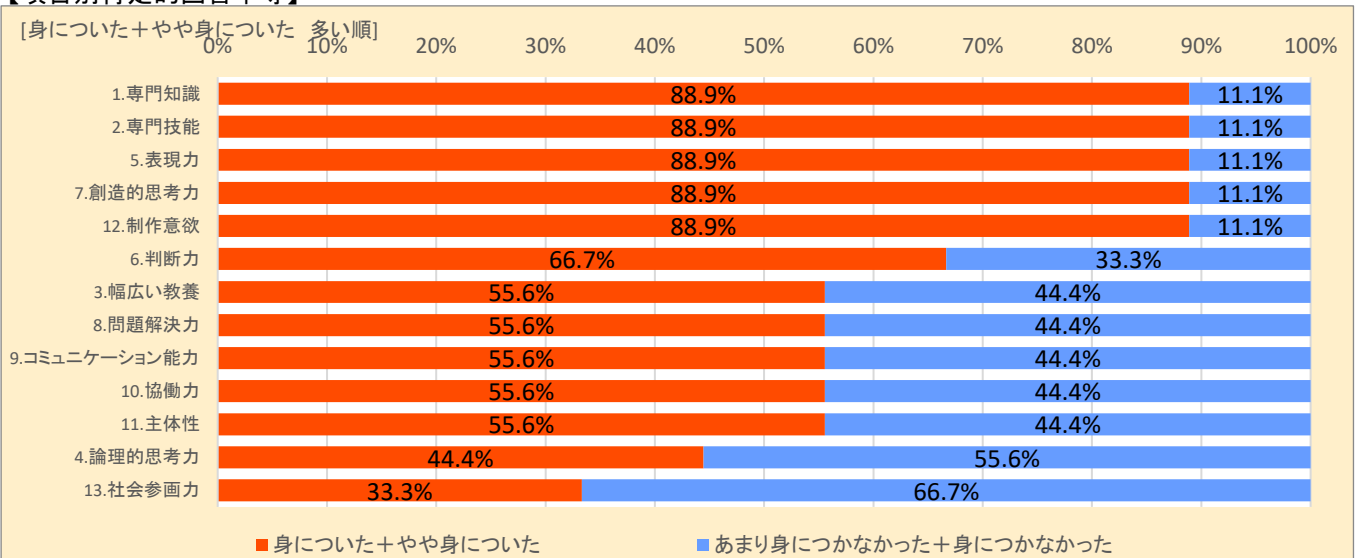
1. 専門知識(DP1)	2. 専門技能(DP1)	3. 幅広い教養(DP1)	4. 論理的思考力(DP2)	5. 表現力(DP2)	6. 判断力(DP2)
7. 創造的思考力(DP2)	8. 問題解決力(DP2・DP3)	9. コミュニケーション能力(DP2・DP3)	10. 協働能力(DP3)	11. 主体性(DP3)	
12. 制作意欲(DP3)	13. 社会参画力(DP3)				

- ・ 回答項目は「身についた」「やや身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率（「身についた」及び「やや身についた」の合計割合）を用いて、デザイン学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

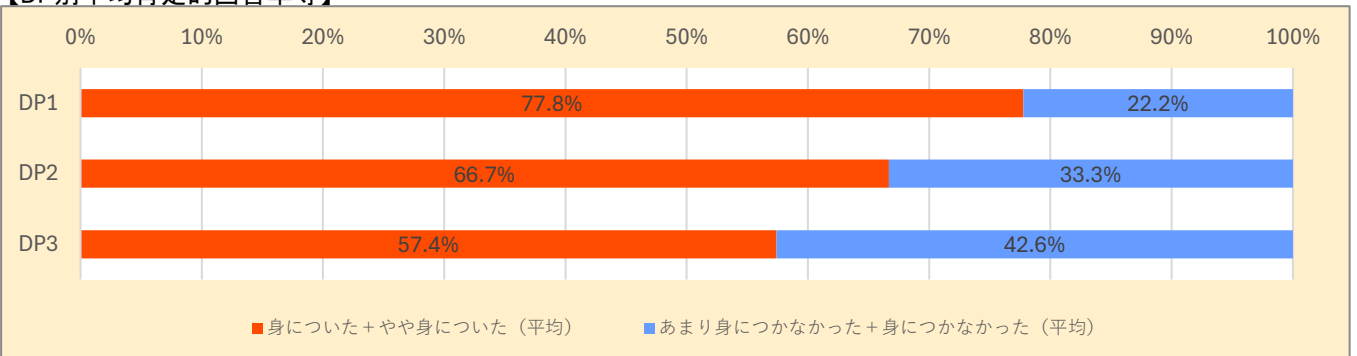
＜参考：デザイン学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養を身につけ、共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語などに関する幅広い教養を身につけていること。（知識・技能）
DP2.	他者との関係において、対話に関わる表現能力や論理的かつ創造的思考力を働かせ、直面する課題解決のための判断力を身につけていること。（思考力・判断力・表現力等）
DP3.	制作・研究について高い意欲と幅広い関心をもち、社会の中で自らの課題に主体的に取り組むことができ、地域や国内外で、人々と協働しその解決と達成に積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

デザイン学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は33.3%～88.9%となり、卒業生の自己評価からは、学科DPで示す能力の修得状況に項目間で差がみられた。項目別では、「専門知識」「専門技能」「表現力」「創造的思考力」「制作意欲」が高い評価を得ており、デザイン分野における専門性や創作活動に関する能力について高い修得実感が示された。一方、「論理的思考力」や「社会参画力」等は肯定的回答率が半数以下となっており、身につつき度に課題があることが示唆される。

DP別平均肯定的回答率は57.4%～77.8%となっており、DP1が最も高い評価を示した一方、DP3の「主体性をもって多様な人々と協働し、社会の中で課題解決に取り組む態度や実践力に関する能力」は相対的に低い結果となった。

以上のことから、デザイン学科卒業生の自己評価からは、専門知識・技能や表現力、創造的思考力等の育成について一定の成果がうかがえた。一方で、論理的思考力や社会参画力をはじめ、社会との関わりの中で能力を発揮するための資質・能力については修得実感が十分とはいえず、今後の教育活動において検討の余地があることが示唆された。

【建築学科】

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

建築学科…(全13問)

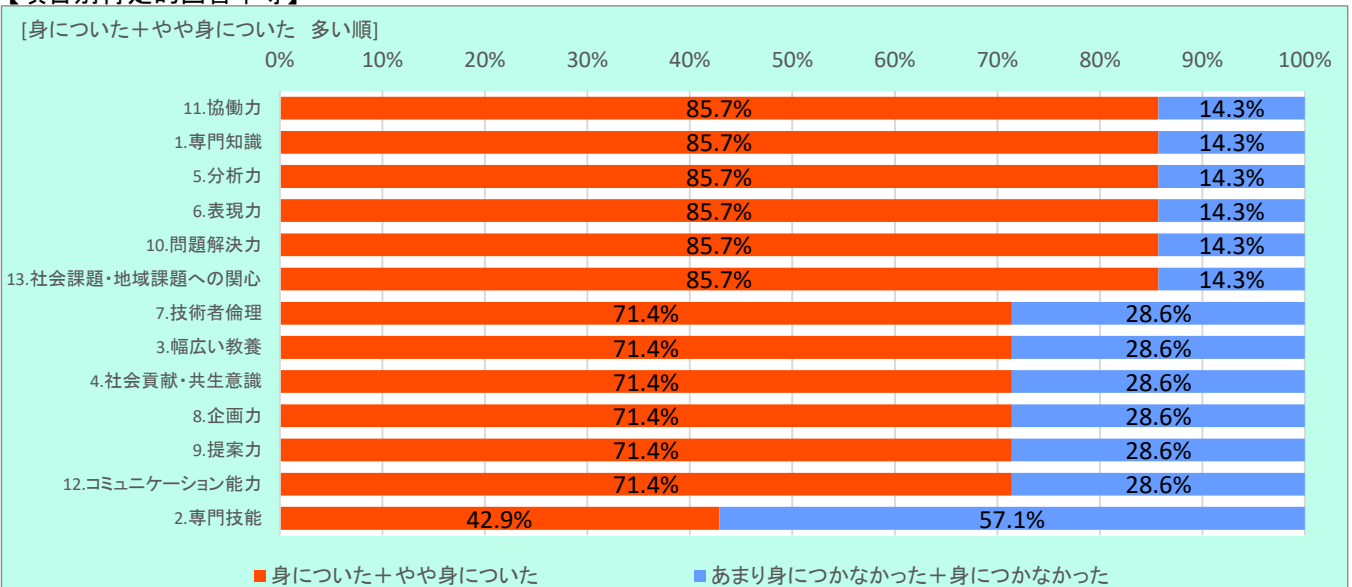
1. 専門知識 (DP1)	2. 専門技能 (DP1)	3. 幅広い教養 (DP1)	4. 社会貢献・共生意識 (DP1・DP3)	5. 分析力 (DP2)
6. 表現力 (DP2)	7. 技術者倫理 (DP2)	8. 企画力 (DP2)	9. 提案力 (DP2)	10. 問題解決力 (DP3)
11. 協働力 (DP3)	12. コミュニケーション能力 (DP3)	13. 社会課題・地域課題への関心 (DP3)		

- ・ 回答項目は「身についた」「やや身についた」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率（「身についた」及び「やや身についた」の合計割合）を用いて、建築学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

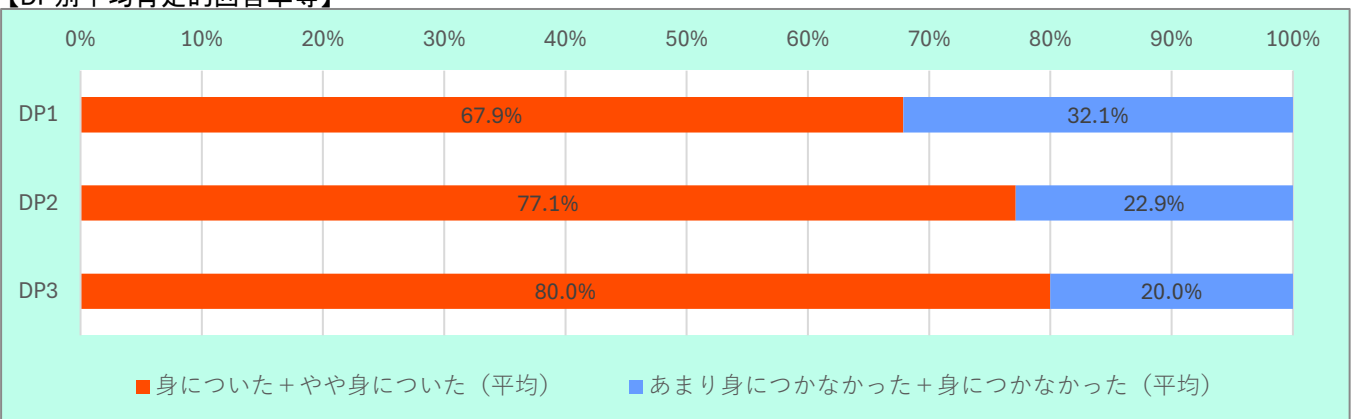
＜参考：建築学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	次代の可能性を切り開き共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築学に関する専門知識や技能を基礎に、自国の文化や社会環境、地域共生などに関する幅広い教養を身につけている。（知識・技能）
DP2.	建築のプロフェッショナルとして、技術者倫理を基礎に企画力・提案力・分析力・表現力など、広く社会に通用する人間力を身につけている。（思考力・判断力・表現力等）
DP3.	地域や共生社会に関する様々な問題に関心を持ち、「建築デザイン」と「ものづくり」を通して、さまざまな人と協働して問題解決に真摯に向き合う態度とコミュニケーション能力を身につけている。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

建築学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は42.9%～85.7%となっており、多くの項目で7割以上の肯定的回答率が得られた。項目別では、「専門知識」「分析力」「表現力」「問題解決力」「協働力」「社会課題・地域課題への関心」が85.7%と高い評価を得た一方、「専門技能」は42.9%と最も低く、唯一肯定的回答率が5割を下回る結果となった。ただし、後述する同能力の役立ち度（※14P参照）では71.4%が肯定的に評価しており、修得実感と卒業後における有用性との間に差がみられた。

DP別平均肯定的回答率は67.9%～77.1%となっており、全てのDPで6割以上の肯定的回答率が得られた。中でもDP2及びDP3は比較的高い評価を示した。

以上のことから、卒業生の自己評価からは、建築学科DPで示す能力は概ね身についたと認識されており、特に分析力、表現力、問題解決力及び協働力について高い修得実感が示された。一方で、専門技能の修得実感については他の能力と比較して低い傾向がみられたことから、今後も継続して状況を確認していく必要がある。

(2) 所属していた学科での学びにおけるスキルの役立ち度

学科DPで示す能力に関して、役立てることができたかを把握するための調査。

【経営学科】

＜調査結果における分析(一部抜粋)＞

- ・学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

経営学科…(全14問)

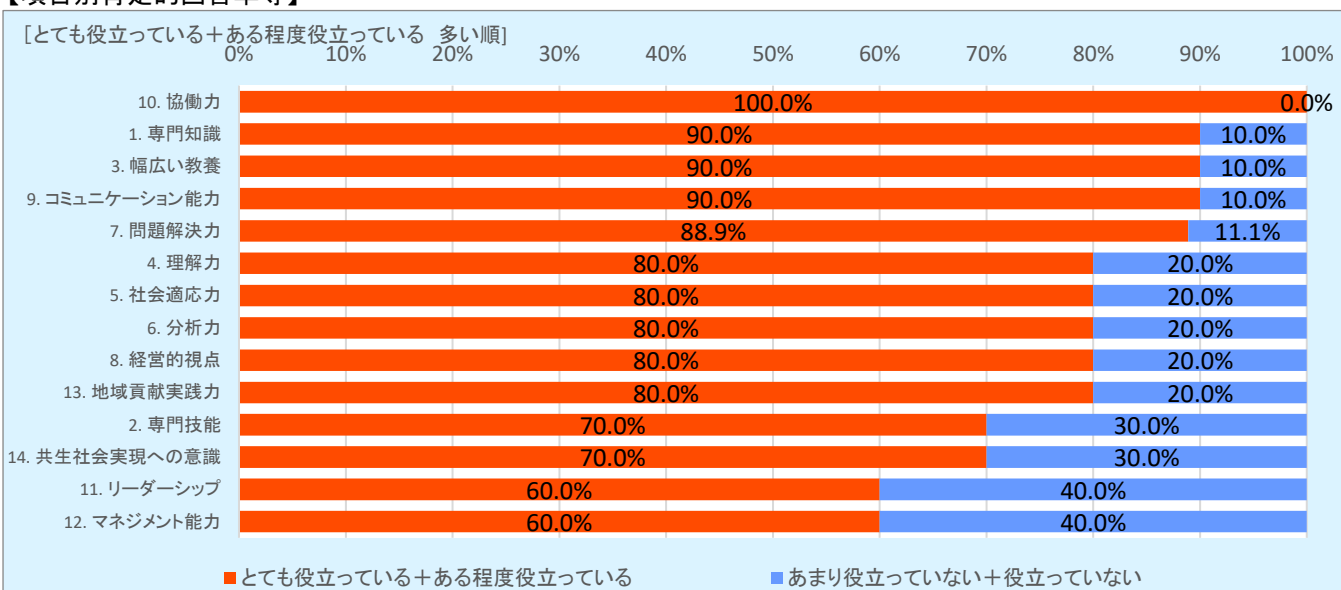
1. 専門知識(DP1・DP2) 2. 専門技能(DP1) 3. 幅広い教養(DP2) 4. 理解力(DP1) 5. 社会適応力(DP1)
6. 分析力(DP3) 7. 問題解決力(DP3) 8. 経営的視点(DP3) 9. コミュニケーション能力(DP4) 10. 協働能力(DP4・DP5)
11. リーダーシップ(DP4) 12. マネジメント能力(DP5) 13. 地域貢献実践力(DP5) 14. 共生社会実現への意識(DP2)

- ・回答項目は「とても役立っている」「ある程度役立っている」「あまり役立っていない」「役立っていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「とても役立っている」及び「ある程度役立っている」の合計割合)を用いて、経営学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

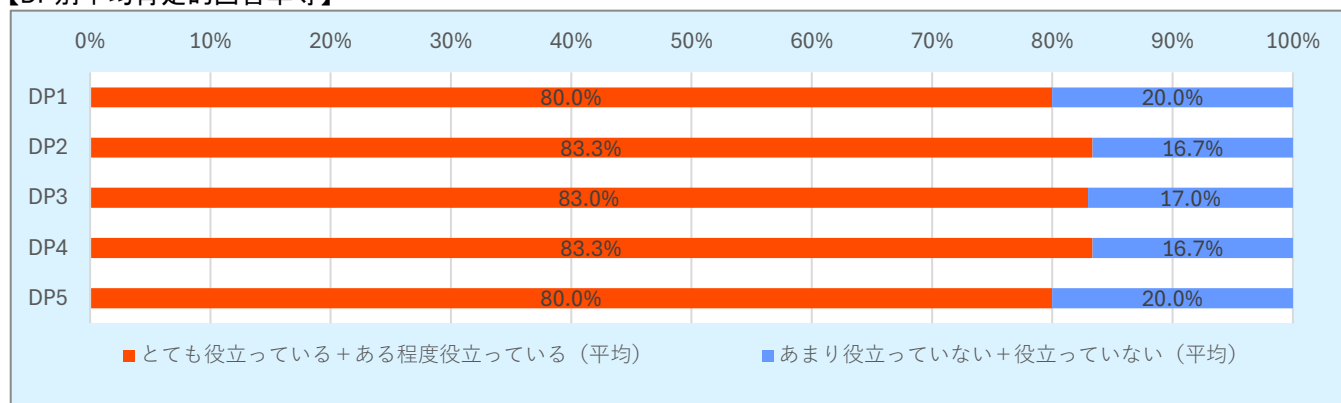
＜参考：経営学科 ディプロマポリシー＞

- DP1. 社会の要請に応える人材として、経営に関する知識や技能を獲得し、社会の現実に即応できるよう、基礎から応用までを俯瞰的に理解している。(知識・技能)
DP2. 共生社会の実現に寄与できる人材として、経営の専門的な知識のみならず幅広い教養を体得している。(知識・技能)
DP3. 企業等の組織および社会が抱える課題を経営学の視点から分析し、解決策を構築する能力を身につけている。(思考力・判断力・表現力等)
DP4. 所属する組織の目的実現に必要なリーダーシップとコミュニケーション能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
DP5. スポーツや地域のイベント、ボランティア活動などを通じて地域社会の発展に貢献するためのマネジメント能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

経営学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は60.0%～100.0%となっており、多くの項目で7割以上の肯定的回答率が得られた。項目別では、「協働能力」が100.0%と最も高く、「専門知識」「幅広い教養」「コミュニケーション能力」についても90.0%と高い評価が得られた。

また、DP別平均肯定的回答率は80.0%～83.3%となっており、各DPで概ね同程度の評価が得られた。

以上のことから、経営学科DPで示す能力は卒業後の生活や職業において概ね役立てられており、特に経営学的視点による課題分析・課題解決能力やコミュニケーション能力、協働能力について高い評価が得られた。また、全てのDPで8割前後の肯定的回答率が得られていることから、学科DPで示す能力が卒業後においても有用な能力として認識されていることがうかがえた。

【社会福祉学科】

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・学科DPIに対応する以下の質問項目を設定している。

社会福祉学科…(全16問)

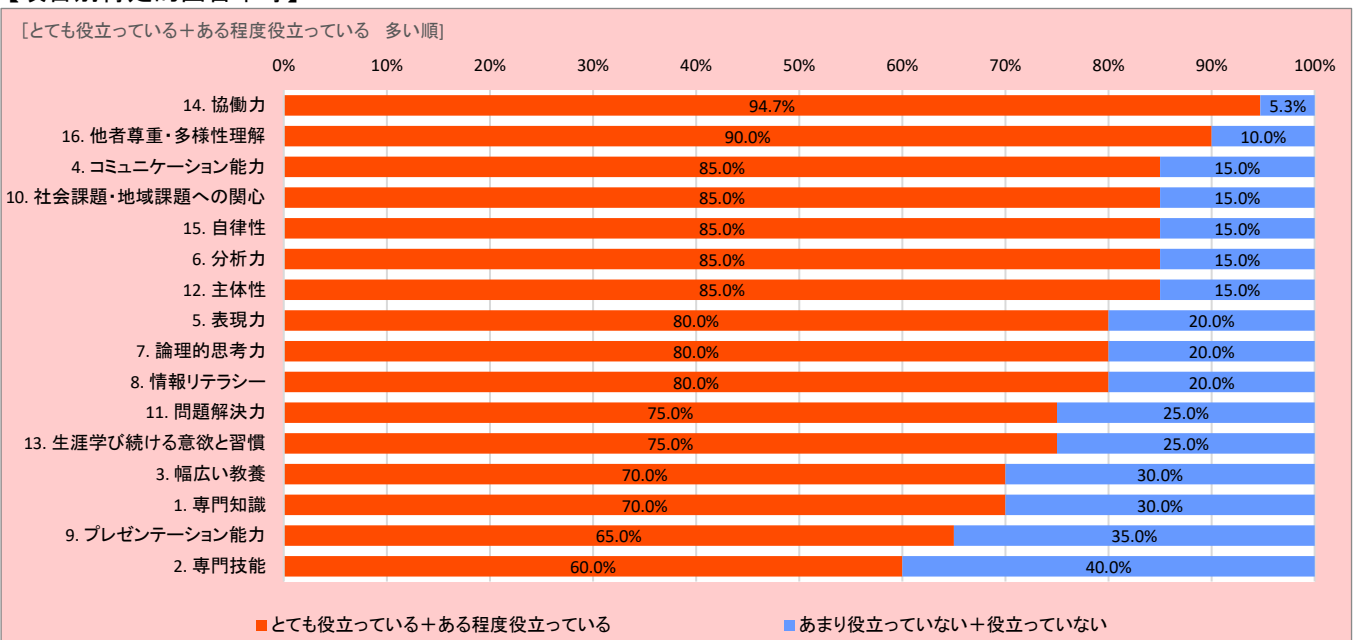
1. 専門知識(DP1)	2. 専門技能(DP1)	3. 幅広い教養(DP2)	4. コミュニケーション能力(DP3)	5. 表現力(DP3)
6. 分析力(DP3)	7. 論理的思考力(DP3)	8. 情報リテラシー(DP3)	9. プレゼンテーション能力(DP3)	
10. 社会課題・地域課題への関心(DP4)	11. 問題解決力(DP4)	12. 主体性(DP5)	13. 生涯学び続ける意欲と習慣(DP5)	
14. 協働力(DP6)	15. 自律性(DP6)	16. 他者尊重・多様性理解(DP7)		

- ・回答項目は「とても役立っている」「ある程度役立っている」「あまり役立っていない」「役立っていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率（「とても役立っている」及び「ある程度役立っている」の合計割合）を用いて、社会福祉学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

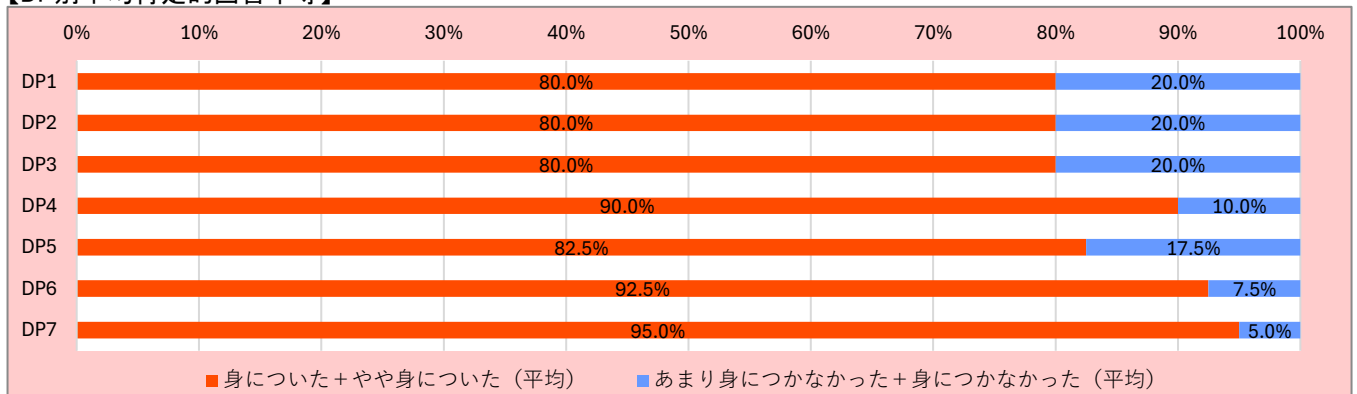
＜参考：社会福祉学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	ソーシャルワークの基礎知識や基本技能を修得し、それらに関連づけて体系的に理解していること。（知識・技能）
DP2.	共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語、健康などに関する幅広い教養を身につけていること。（知識・技能）
DP3.	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報リテラシー及び知識や情報を複眼的・論理的に分析し表現できる能力を身につけていること。（思考力・判断力・表現力等）
DP4.	現代社会や地域が抱える課題に気づき、それらの解決に果敢に立ち向かう能力を身につけていること。（知識・技能）（思考力・判断力・表現力等）
DP5.	生涯学び続けるための意欲と学習する習慣を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
DP6.	自らを律し、他者と協調・協働して行動ができること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
DP7.	人の尊厳を重んじ、豊かな人間性を尊重できる態度を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

社会福祉学科における学科DPIに対応する各能力の肯定的回答率は60.0%～95.0%となっており、多くの項目で7割以上の肯定的回答率が得られた。項目別では「協働力」が94.7%と最も高く、「他者尊重・多様性理解」や「コミュニケーション能力」、「社会課題・地域課題への関心」についても高い評価を得た。

また、DP別平均肯定的回答率は80.0%～95.0%となっており、特にDP6及びDP7が高い評価を示しており、自らを律し他者と協働する力や、人の尊厳を尊重し多様性を理解する態度について高い評価が得られた。

以上のことから、社会福祉学科DPで示す能力は卒業後の生活や職業において概ね役立てられており、特に他者尊重・多様性理解、協働力及び社会課題・地域課題への関心について高い評価が得られた。また、DP6及びDP7の評価が高いことから、多様な人々と協働し、他者を尊重する態度が卒業後にも役立てられていることがうかがえた。

【デザイン学科】

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

デザイン学科…（全13問）

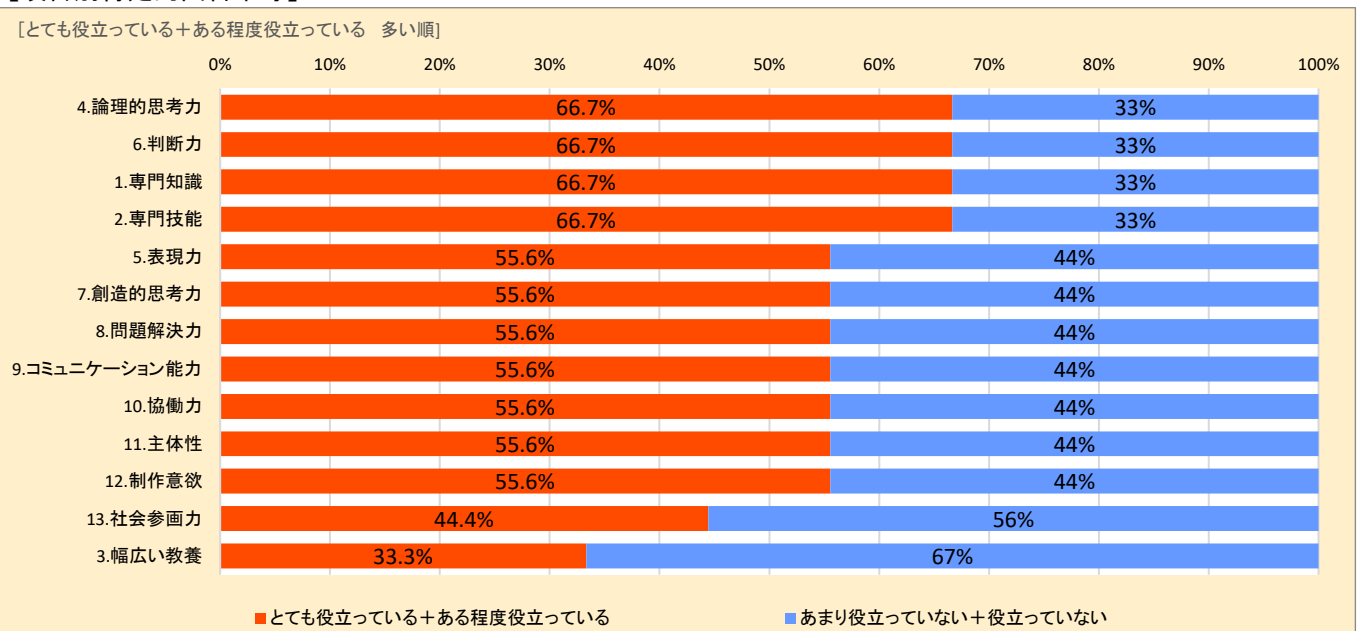
1. 専門知識 (DP1)	2. 専門技能 (DP1)	3. 幅広い教養 (DP1)	4. 論理的思考力 (DP2)	5. 表現力 (DP2)	6. 判断力 (DP2)
7. 創造的思考力 (DP2)	8. 問題解決力 (DP2・DP3)	9. コミュニケーション能力 (DP2・DP3)	10. 協働性 (DP3)	11. 主体性 (DP3)	
12. 制作意欲 (DP3)	13. 社会参画力 (DP3)				

- ・ 回答項目は「とても役立っている」「ある程度役立っている」「あまり役立っていない」「役立っていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率（「とても役立っている」及び「ある程度役立っている」の合計割合）を用いて、デザイン学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

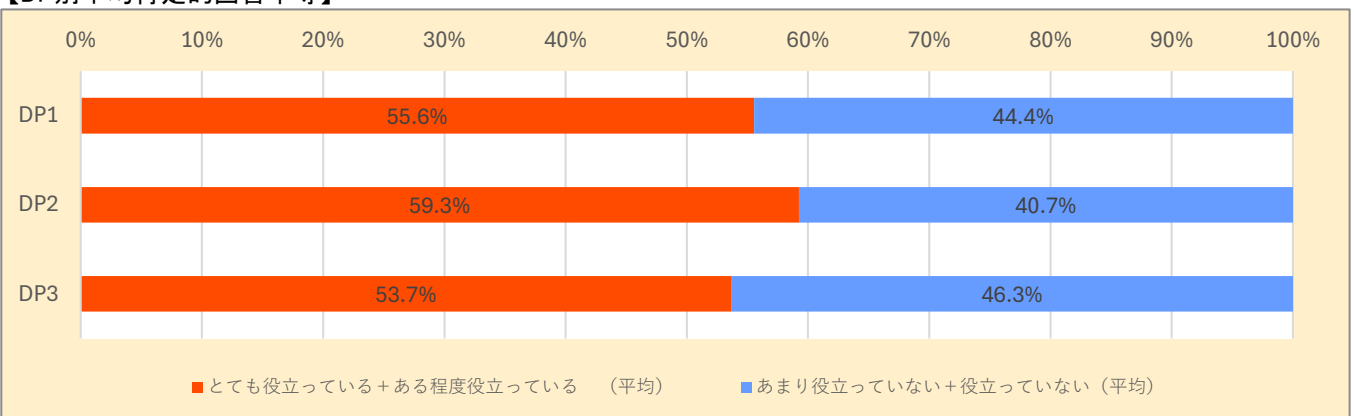
＜参考：デザイン学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養を身につけ、共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語などに関する幅広い教養を身につけていること。（知識・技能）
DP2.	他者との関係において、対話に関わる表現能力や論理的かつ創造的思考力を働かせ、直面する課題解決のための判断力を身につけていること。（思考力・判断力・表現力等）
DP3.	制作・研究について高い意欲と幅広い関心をもち、社会の中で自らの課題に主体的に取り組むことができ、地域や国内外で、人々と協働しその解決と達成に積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

デザイン学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は33.3%～66.7%となっており、項目によって評価に差がみられた。項目別では、「論理的思考力」「判断力」「専門知識」「専門技能」が66.7%と比較的高い評価を得た一方、「幅広い教養」は33.3%、「社会参画力」は44.4%と、役立ち度の評価が低い結果となった。

DP別平均肯定的回答率に関しては53.7%～59.3%となっており、DP間に大きな差はみられなかった。

以上のことから、一部能力の役立ち度に差が見られたものの、デザイン学科DPで示す能力は卒業後の生活や職業において一定程度役立てられていることがうかがえた。特に専門知識・専門技能や論理的思考力、判断力について比較的高い評価が得られていることから、実社会で有用なデザインに関する専門性や論理的思考力、判断力等の育成については一定の教育効果が認められたと考える。

【建築学科】

＜調査結果における分析(一部抜粋)＞

- ・学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

建築学科…(全13問)

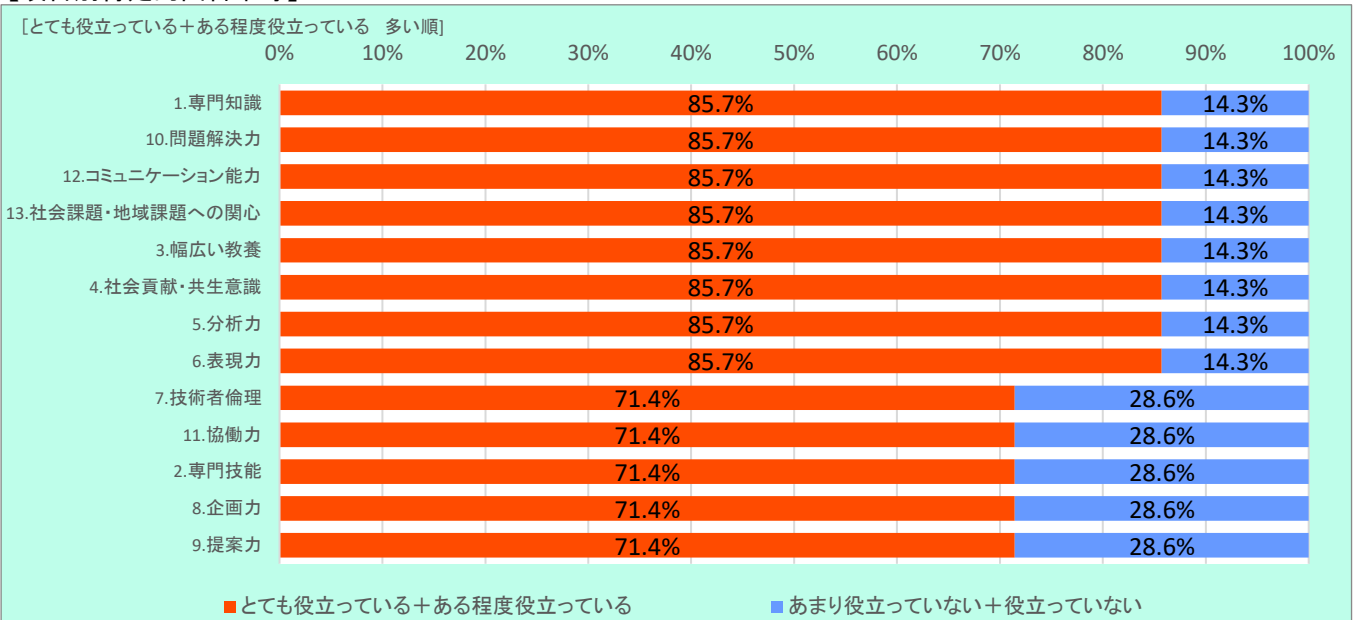
1. 専門知識(DP1)	2. 専門技能(DP1)	3. 幅広い教養(DP1)	4. 社会貢献・共生意識(DP1・DP3)	5. 分析力(DP2)
6. 表現力(DP2)	7. 技術者倫理(DP2)	8. 企画力(DP2)	9. 提案力(DP2)	10. 問題解決力(DP3)
11. 協働力(DP3)	12. コミュニケーション能力(DP3)	13. 社会課題・地域課題への関心(DP3)		

- ・回答項目は「とても役立っている」「ある程度役立っている」「あまり役立っていない」「役立っていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「とても役立っている」及び「ある程度役立っている」の合計割合)を用いて、建築学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

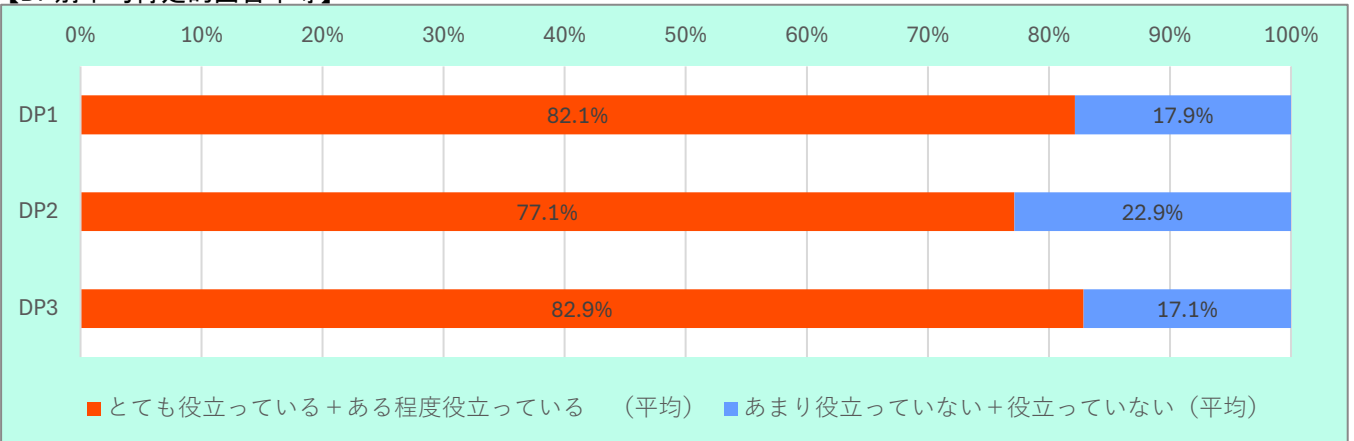
＜参考：建築学科 ディプロマポリシー＞

DP1.	次代の可能性を切り開き共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築学に関する専門知識や技能を基礎に、自国の文化や社会環境、地域共生などに関する幅広い教養を身につけている。(知識・技能)
DP2.	建築のプロフェッショナルとして、技術者倫理を基礎に企画力・提案力・分析力・表現力など、広く社会に通用する人間力を身につけている。(思考力・判断力・表現力等)
DP3.	地域や共生社会に関する様々な問題に関心を持ち、「建築デザイン」と「ものづくり」を通して、さまざまな人と協働して問題解決に真摯に向き合う態度とコミュニケーション能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

建築学科における学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は71.4%～85.7%となっており、全ての項目で7割以上の肯定的回答率が得られた。項目別では、「専門知識」「分析力」「表現力」「問題解決力」「コミュニケーション能力」「社会課題・地域課題への関心」等が85.7%と高い評価を得た。

また、DP別平均肯定的回答率は77.1%～82.9%となっており、全てのDPで7割以上の肯定的回答率が得られた。特にDP3が82.9%と最も高い評価を示した。

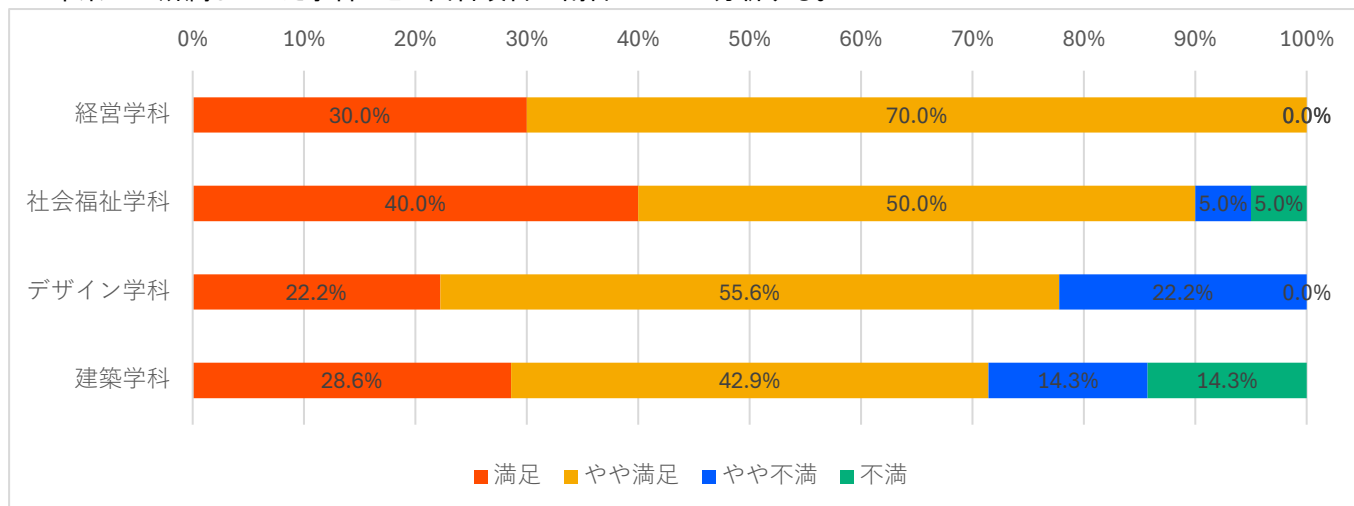
以上のことから、建築学科DPで示す能力は卒業後の生活や職業において概ね役立てられていることがうかがえた。特に、建築に関する専門知識や分析力、表現力に加え、問題解決力やコミュニケーション能力、社会課題・地域課題への関心といった能力について高い評価が得られていることから、建築の専門性と地域・社会の課題解決に必要な能力の育成について一定の教育効果が認められたと考える。

Q5 卒業後の経験を踏まえ、星槎道都大学の教育内容についてどのように感じていますか。

- ・ 本学の教育内容の満足度について把握するための調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 回答項目を「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4項目に設定している。
- ・ 卒業生が所属していた学科ごとに回答項目の割合について分析する。



<所見>

本学の教育内容に対する満足度について、肯定的回答率(「満足」及び「やや満足」の合計割合)を学科別に見ると、経営学科は100.0%、社会福祉学科は90.0%、デザイン学科は77.8%、建築学科は71.5%となっており、すべての学科の肯定的回答率が高い結果となった。

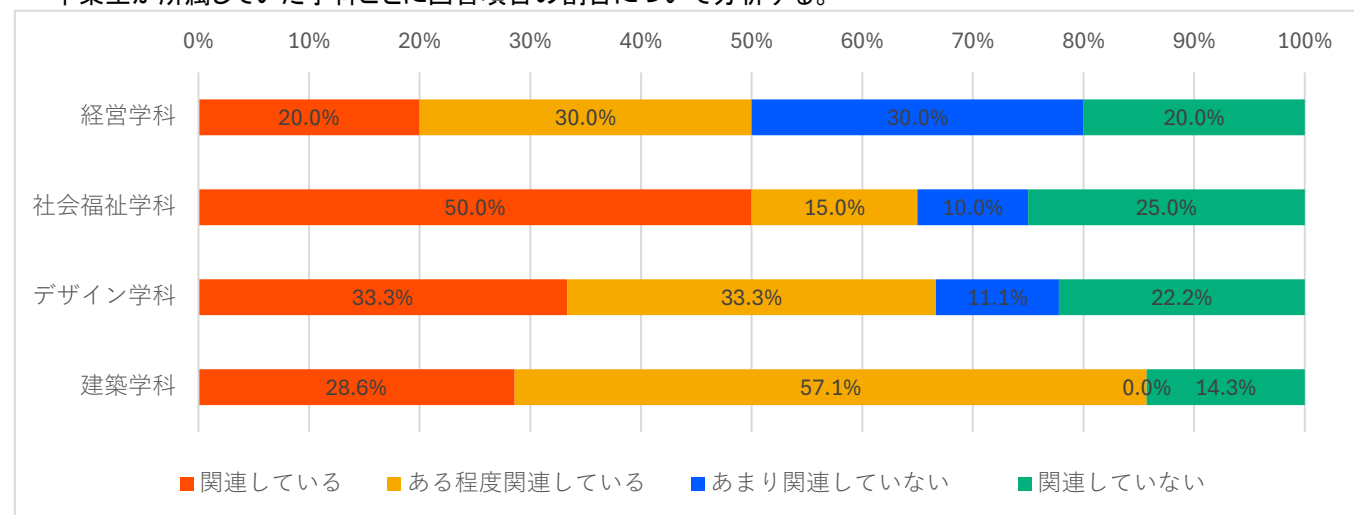
以上のことから、卒業生からは本学の教育内容について概ね満足しているとの評価が得られており、特に経営学科及び社会福祉学科において高い満足度が示された。

Q6 現在のキャリアと、本学での学びの関連について教えてください。

- ・ 現在の仕事と本学での教育内容の関連性について把握するための調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 回答項目を「関連している」「ある程度関連している」「あまり関連していない」「関連していない」の4項目に設定している。
- ・ 卒業生が所属していた学科ごとに回答項目の割合について分析する。



<所見>

現在の仕事と本学での学びとの関連性について、肯定的回答率(「関連している」及び「ある程度関連している」の合計割合)は50.0%~85.7%となった。学科別では、建築学科が85.7%と最も高く、現在の仕事と学びとの関連性が高い傾向が見られ、社会福祉学科は肯定的回答率が75.0%かつ、「関連している」の割合が50.0%と高い。デザイン学科は66.6%、経営学科は50.0%となっており、学科によって差がみられた。

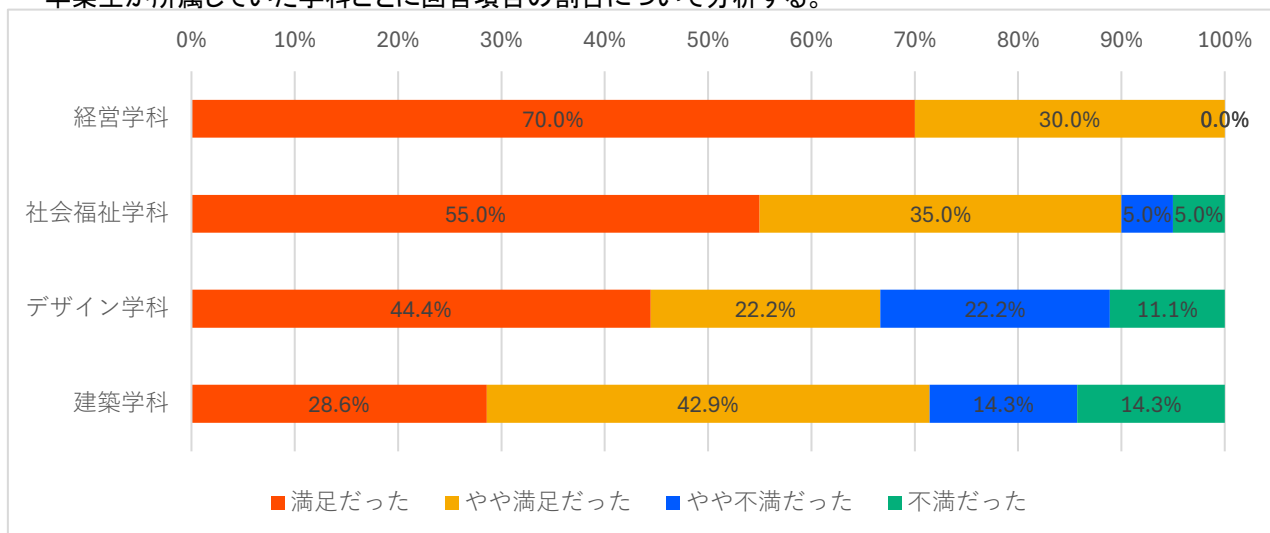
以上のことから、現在の仕事と本学での学びとの関連性については学科によって差がみられたものの、全ての学科で半数以上が肯定的に回答していた。特に建築学科及び社会福祉学科では、本学での学びが現在の仕事と高い関連性を有していることがうかがえた。

Q7 星槎道都大学の学生生活についてどのように感じていますか。

- ・ 本学の学生生活の満足度について把握するための調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 回答項目を「満足だった」「やや満足だった」「やや不満だった」「不満だった」の4項目に設定している。
- ・ 卒業生が所属していた学科ごとに回答項目の割合について分析する。



<所見>

学生生活に対する満足度について、肯定的回答率は66.6%～100.0%となった。学科別では、経営学科及び社会福祉学科で高い満足度が示された一方、デザイン学科及び建築学科では相対的に低い結果となった。

以上のことから、本学の学生生活については概ね良好な評価が得られているものの、学科間で満足度に差がみられる結果になった。

Q8 星槎道都大学に対するご意見やご要望等がありましたらご入力ください。(自由回答)

- ・ 本学への各種意見についての調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 総合的な本学への各種意見を、任意として自由記述形式で収集した。
- ・ 全回答数は8件だった。回答内容は以下の通り。

<回答内容(一部要約・抜粋)>

[社会福祉学科]

在学時代、もっと色々な職種の卒業生の話を聞きたかったなと感じます。

教職課程について、僻地教育や特別支援教育などと併せて指導していただくことを検討いただきたい。

[デザイン学科]

デザイン関連の授業で、もっと実務に近い実践学習等が増えると、社会に出た時にも役に立つかと思います。

<所見>

意見・要望からは早急に対応を要する重要意見等はなかった。寄せられた意見からは、卒業生との交流機会の充実や教職課程に関する要望、実践的な学習機会の充実を期待する意見がみられた。

なお、一部要望に関しては関連部署へ情報を共有し、各部署において対応を図っている。

Ⅱ 就職先企業等に対する大学教育の成果に関するアンケート調査

【調査概要】

- (1) 調査方法 … 郵送依頼、WEB回答 (Microsoft Formsを使用。)
 (2) 調査実施時期 … 令和8年8月3日(月)～8月31日(月)
 (3) 調査対象 … 令和5年度卒業生 (令和5年9月卒業、令和6年3月卒業)

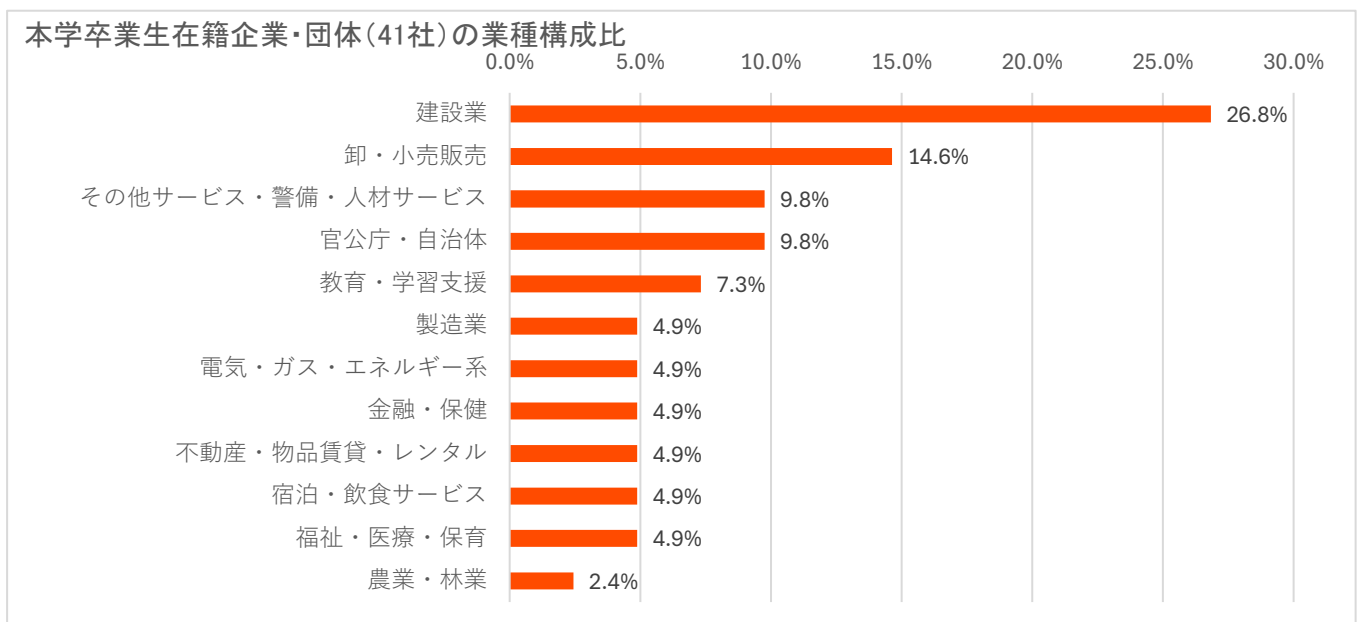
【調査項目一覧】

- Q1 貴社(団体)名をご記入願います。
 Q2 貴社(団体)の業種を選択してください。
 Q3 貴社(団体)では 星槎道都大学の卒業生が在職していますか？
 Q4 本学卒業生は以下のスキルについてどの程度身についていると思われますか。
 (1) 共通質問 … (全13問 4択)
 (2) 学科別質問 (※該当者がいない学科は「該当者なし」を選択)
 経営学科…(全14問 4択) ・ 社会福祉学科…(全16問 4択) ・ デザイン学科…(全13問 4択) ・ 建築学科…(全13問 4択)
 Q5 星槎道都大学出身者の問題解決力を、他の社員(職員)様と比較して評価してください。… (全9問 4択)
 Q6 貴社(団体)で求められる人材像に照らして、本学でどのような教育が必要だとお感じになりますか… (自由記述)
 Q7 星槎道都大学に対するご意見やご要望等がありましたらご入力ください。… (自由記述)

【結果報告】

- Q1 貴社(団体)名をご記入願います。
 Q2 貴社(団体)の業種を選択してください。
 Q3 貴社(団体)では 星槎道都大学の卒業生が在職していますか？

産業分類	発送数	回答数	在籍者あり	在籍者なし	回答率 (回答数/発送数)
農業・林業	2	1	1		50.0%
漁業	1				0.0%
建設業	33	14	11	3	42.4%
製造業	6	2	2		33.3%
電気・ガス・エネルギー系	5	2	2		40.0%
情報・IT・通信	12				0.0%
運輸・郵便・引越	1				0.0%
卸・小売販売	26	9	6	3	34.6%
金融・保健	3	2	2		66.7%
不動産・物品賃貸・レンタル	7	2	2		28.6%
学術・専門技術・広告代理店	3	1		1	33.3%
宿泊・飲食サービス	11	3	2	1	27.3%
娯楽・フィットネス・旅行	7				0.0%
教育・学習支援	11	3	3		27.3%
福祉・医療・保育	24	5	2	3	20.8%
その他サービス・警備・人材サービス	14	9	4	5	64.3%
官公庁・自治体	11	4	4		36.4%
総計	177	57	41	16	32.2%



※Q4以降の集計は原則として本学卒業生在籍の41社(団体)を対象とする。

Q4 本学卒業生は以下のスキルについてどの程度身についていると思われますか。

(1) 共通質問

- ・ 企業で働く卒業生を対象にした星槎道都大学DPの身につき度についての調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 大学DPに対応する以下の13個の質問項目を設定している。

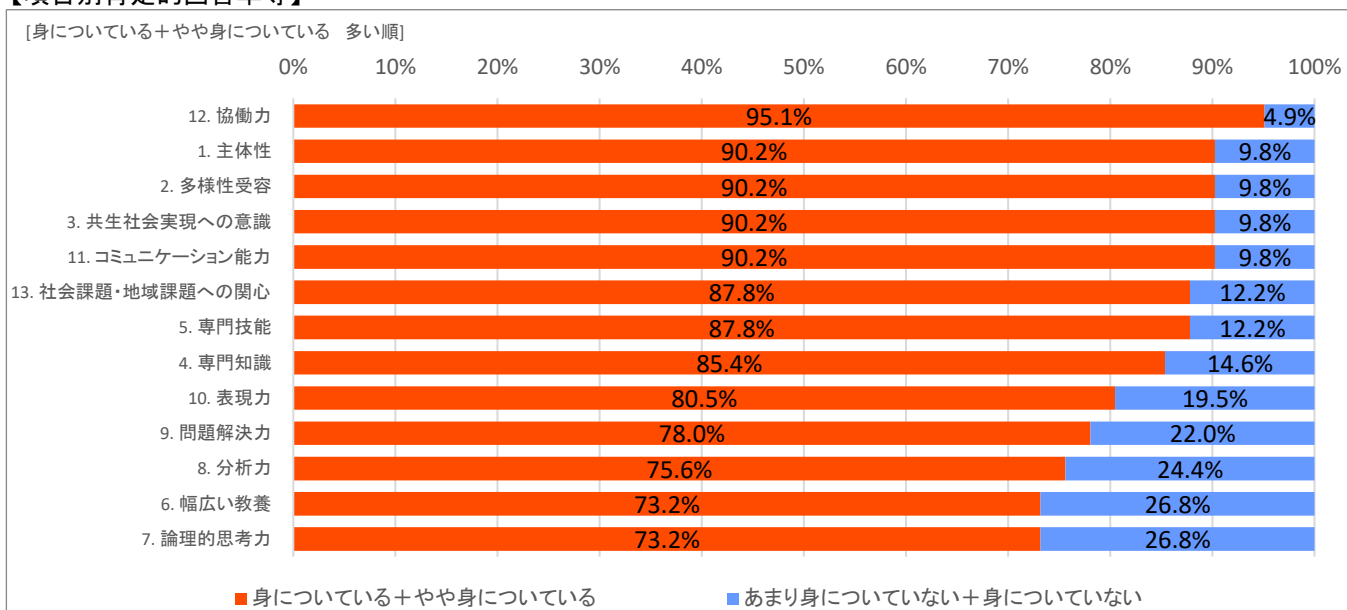
1. 主体性 (DP1)	2. 多様性受容 (DP1)	3. 共生社会実現への意識 (DP1)	4. 専門知識 (DP2)	5. 専門技能 (DP2)
6. 幅広い教養 (DP3)	7. 論理的思考力 (DP4)	8. 分析力 (DP4)	9. 問題解決力 (DP4・DP5)	10. 表現力 (DP5)
11. コミュニケーション能力 (DP5)	12. 協働能力 (DP5)	13. 社会課題・地域課題への関心 (DP5)		

- ・ 回答項目は「身についている」「やや身についている」「あまり身についていない」「身についていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率(「身についている」及び「やや身についている」の合計割合)を用いて、大学DPで示す能力の修得状況を分析する。

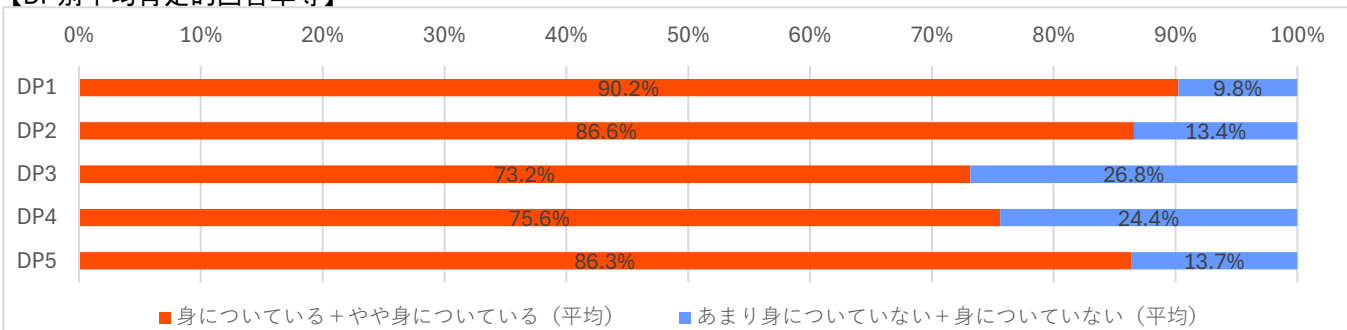
<参考:星槎道都大学ディプロマポリシー>

DP1.	すべての人々が共生する社会の実現に資する意志や態度。
DP2.	すべての人々が共生する社会の基盤となる専門分野における知識、技能およびこれらを実践的に活用する能力。
DP3.	すべての人々が共生する社会で必要となる教養。
DP4.	課題探求能力をもって自ら問題を発見し、論理的に思考し、解決に導く態度。
DP5.	身のまわりや地域にある様々な問題に関心を持ち、自己の意見を的確に表現するとともに、自らの責任を自覚し、問題解決のためにすべての人々と協働することができる態度。

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

企業等による本学卒業生への評価に関して、大学DPに対応する各能力の肯定的回答率は73.2%~95.1%となり、すべての項目で7割を超える結果となった。

特に、「協働能力」が95.1%と最も高く、「主体性」「多様性受容」「共生社会実現への意識」「コミュニケーション能力」も90.2%と高い評価を得ており、他者と協働しながら主体的に行動する姿勢が職場において評価されていることがうかがえた。DP別平均肯定的回答率は、いずれも7割を超える肯定的回答率が得られており、特にDP1が90.2%と最も高く、総じて一定の評価を得ていることが確認された。

以上のことから、企業等は本学卒業生が大学DPで示す能力を概ね身につけていると評価していることがうかがえた。特に、主体性、多様性受容、共生社会実現への意識、協働能力、コミュニケーション能力が高く評価されている。

このように、本学のDPで示す資質・能力を備えた卒業生が企業等から評価されていることは、本学が育成する共生社会の実現に貢献する人材が社会のニーズに合致していることを示しており、本学の使命・目的に照らした教育の質保証の一助となるものと考えられる。

(2) 学科別質問

【経営学科】…(全14問 4択)

- ・ 企業で働く経営学科卒業生を対象にした学科DPの身につけ度についての調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

経営学科…(全14問)

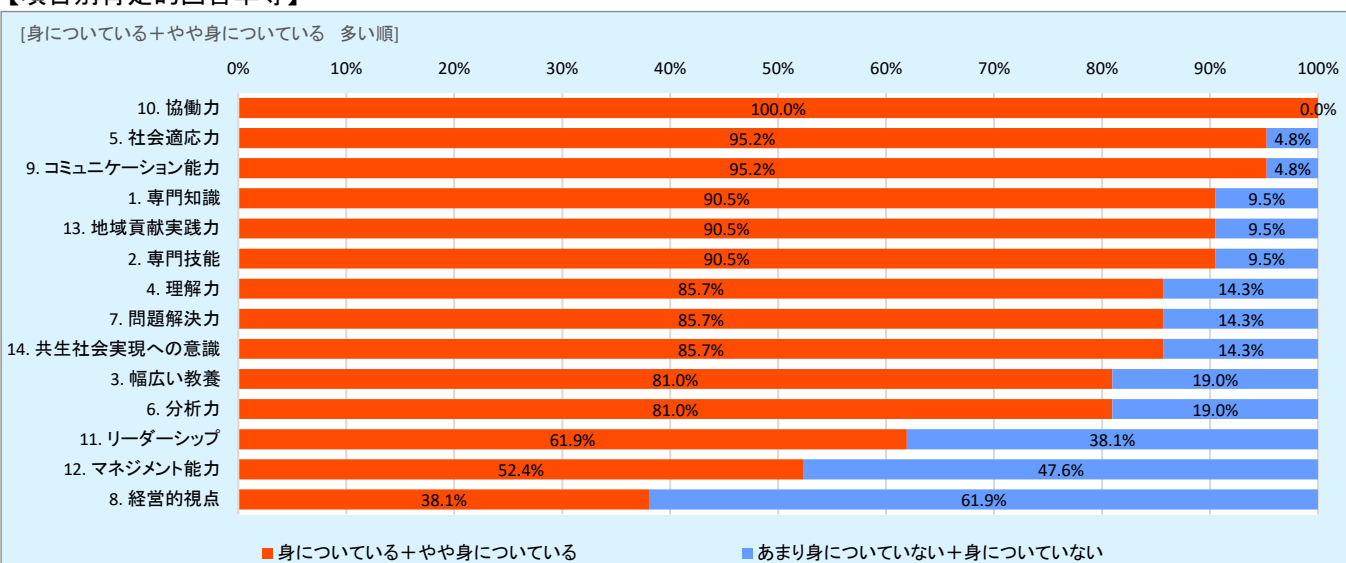
1. 専門知識(DP1・DP2) 2. 専門技能(DP1) 3. 幅広い教養(DP2) 4. 理解力(DP1) 5. 社会適応力(DP1)
6. 分析力(DP3) 7. 問題解決力(DP3) 8. 経営的視点(DP3) 9. コミュニケーション能力(DP4) 10. 協働能力(DP4・DP5)
11. リーダーシップ(DP4) 12. マネジメント能力(DP5) 13. 地域貢献実践力(DP5) 14. 共生社会実現への意識(DP2)

- ・ 回答項目は「身につけている」「やや身につけている」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率(「身につけている」及び「やや身につけている」の合計割合)を用いて、学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

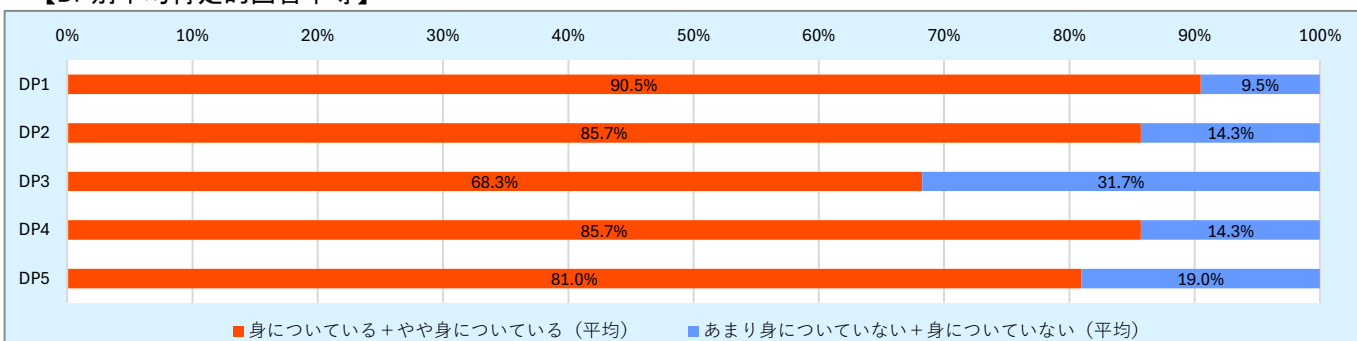
<参考: 経営学科 ディプロマポリシー>

- DP1. 社会の要請に応える人材として、経営に関する知識や技能を獲得し、社会の現実に即応できるよう、基礎から応用までを俯瞰的に理解している。(知識・技能)
DP2. 共生社会の実現に寄与できる人材として、経営の専門的な知識のみならず幅広い教養を体得している。(知識・技能)
DP3. 企業等の組織および社会が抱える課題を経営学の視点から分析し、解決策を構築する能力を身につけている。(思考力・判断力・表現力等)
DP4. 所属する組織の目的実現に必要なリーダーシップとコミュニケーション能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
DP5. スポーツや地域のイベント、ボランティア活動などを通じて地域社会の発展に貢献するためのマネジメント能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

経営学科卒業生に対する企業の評価では、学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は38.1%～100.0%となった。項目別では、「協働能力」が100.0%と最も高く、「社会適応力」及び「コミュニケーション能力」が95.2%、「専門知識」「専門技能」「地域貢献実践力」が90.5%となるなど、多くの項目で高い評価が得られ、企業において良好に評価されていることが確認された。一方、「経営的視点」の肯定的回答率は38.1%と他の項目と比較すると低い結果となった。DP別平均肯定的回答率は、DP1が90.5%と最も高く、次いでDP2・DP4もそれぞれ85.7%と高い評価を得た。一方、DP3は他DPと比較すると相対的に低い傾向が見られたものの、68.3%と約7割の肯定的回答率が得られており、企業から一定の評価を受けていることがうかがえる。

以上のことから、企業等は、本学の経営学科卒業生が学科DPで示す能力を概ね身につけていると評価されており、特に、専門知識・専門技能に加え、社会適応力やコミュニケーション能力、協働能力など、組織や社会で求められる実践的な能力について高い評価が得られた。このように、経営学科DPで示す資質・能力を備えた卒業生が企業等から評価されていることは、経営学科が育成を目指す人材が社会のニーズに合致していることを示しており、経営学科の教育目的に照らした教育の質保証の一助となるものと考えられる。

【社会福祉学科】…(全16問 4択)

- ・ 企業で働く社会福祉学科卒業生を対象にした学科DPの身につつき度についての調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

社会福祉学科…(全16問)

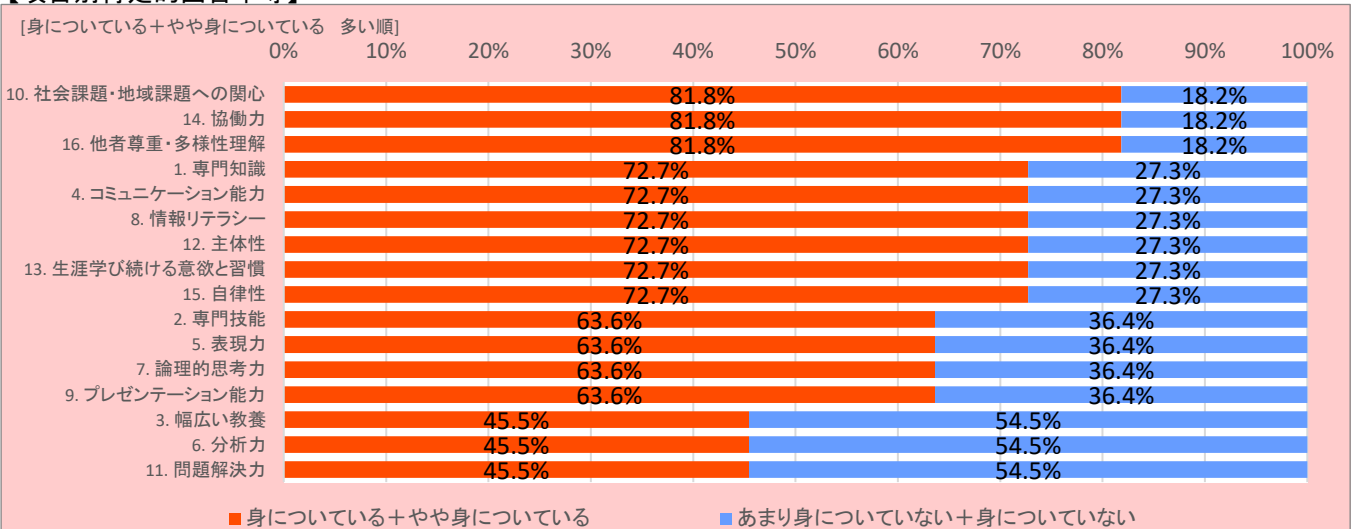
1. 専門知識(DP1)	2. 専門技能(DP1)	3. 幅広い教養(DP2)	4. コミュニケーション能力(DP3)	5. 表現力(DP3)
6. 分析力(DP3)	7. 論理的思考力(DP3)	8. 情報リテラシー(DP3)	9. プレゼンテーション能力(DP3)	
10. 社会課題・地域課題への関心(DP4)	11. 問題解決力(DP4)	12. 主体性(DP5)	13. 生涯学び続ける意欲と習慣(DP5)	
14. 協働力(DP6)	15. 自律性(DP6)	16. 他者尊重・多様性理解(DP7)		

- ・ 回答項目は「身についている」「やや身についている」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率(「身についている」及び「やや身についている」の合計割合)を用いて、学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

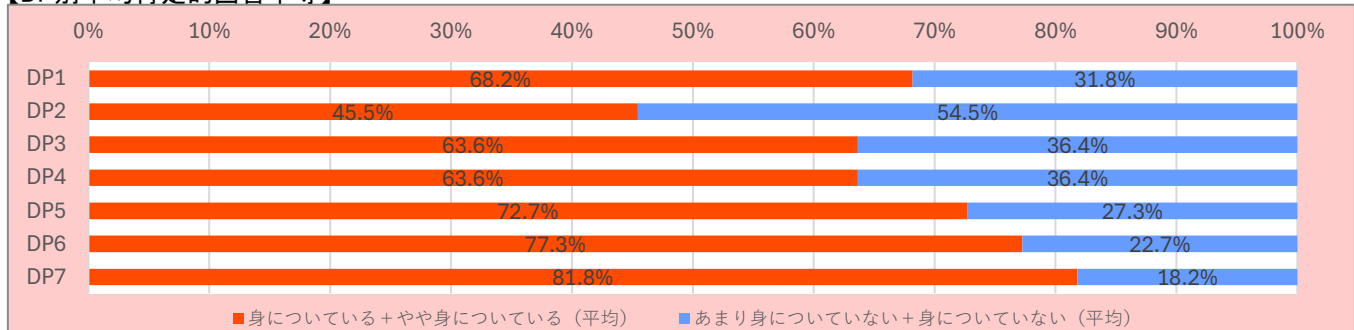
<参考: 社会福祉学科 ディプロマポリシー>

DP1.	ソーシャルワークの基礎知識や基本技能を修得し、それらを関連づけて体系的に理解していること。(知識・技能)
DP2.	共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語、健康などに関する幅広い教養を身につけていること。(知識・技能)
DP3.	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報リテラシー及び知識や情報を複眼的・論理的に分析し表現できる能力を身につけていること。(思考力・判断力・表現力等)
DP4.	現代社会や地域が抱える課題に気づき、それらの解決に果敢に立ち向かう能力を身につけていること。(知識・技能)
DP5.	生涯学び続けるための意欲と学習する習慣を身につけていること。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
DP6.	自らを律し、他者と協調・協働して行動ができること。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
DP7.	人の尊厳を重んじ、豊かな人間性を尊重できる態度を身につけていること。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

社会福祉学科卒業生に対する企業の評価では、学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は45.5%～81.8%となった。項目別では、「社会課題・地域課題への関心」「協働力」「他者尊重・多様性理解」が81.8%と最も高く、社会課題への関心や他者と協働する姿勢について高い評価が得られた。一方、「幅広い教養」「分析力」「問題解決力」は45.5%と、他の項目と比較して低い結果となった。

また、DP別平均肯定的回答率に関しては、DP7が81.8%と最も高く、DP5及びDP6も72.7%と比較的高い評価を得た。一方、DP2は45.5%となった。

以上のことから、企業等は、本学の社会福祉学科卒業生が学科DPで示す能力を概ね身につけていると評価されており、特に社会課題・地域課題への関心、協働力及び他者尊重・多様性理解など、社会福祉学科が重視する態度面に関する能力について高い評価が得られた。このように、社会福祉学科DPで示す資質・能力を備えた卒業生が企業等から評価されていることは、社会福祉学科が育成を目指す人材が社会のニーズに合致していることを示しており、社会福祉学科の教育目的に照らした教育の質保証の一助となるものと考えられる。

【デザイン学科】

- ・ 企業で働くデザイン学科卒業生を対象にした学科DPの身につiki度についての調査。

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

- ・ 学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

デザイン学科…（全13問）

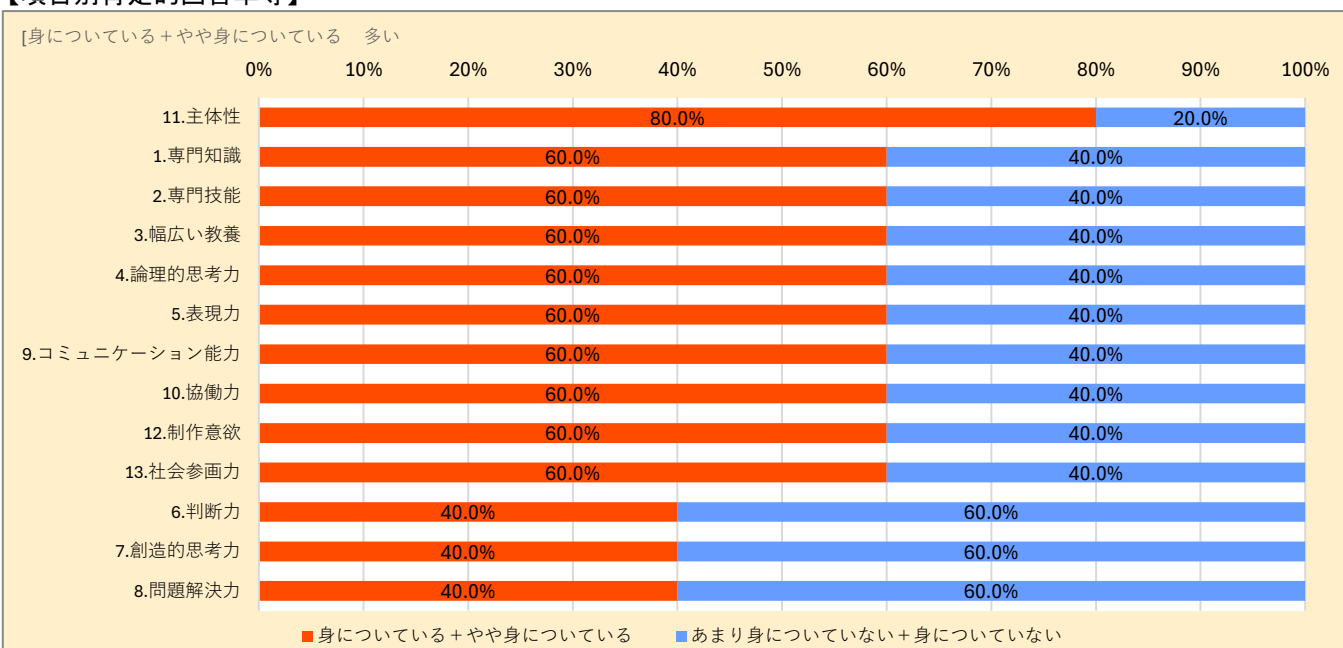
1. 専門知識 (DP1)	2. 専門技能 (DP1)	3. 幅広い教養 (DP1)	4. 論理的思考力 (DP2)	5. 表現力 (DP2)	6. 判断力 (DP2)
7. 創造的思考力 (DP2)	8. 問題解決力 (DP2・DP3)	9. コミュニケーション能力 (DP2・DP3)	10. 協働性 (DP3)	11. 主体性 (DP3)	
12. 制作意欲 (DP3)	13. 社会参画力 (DP3)				

- ・ 回答項目は「身についている」「やや身についている」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率（「身についている」及び「やや身についている」の合計割合）を用いて、学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

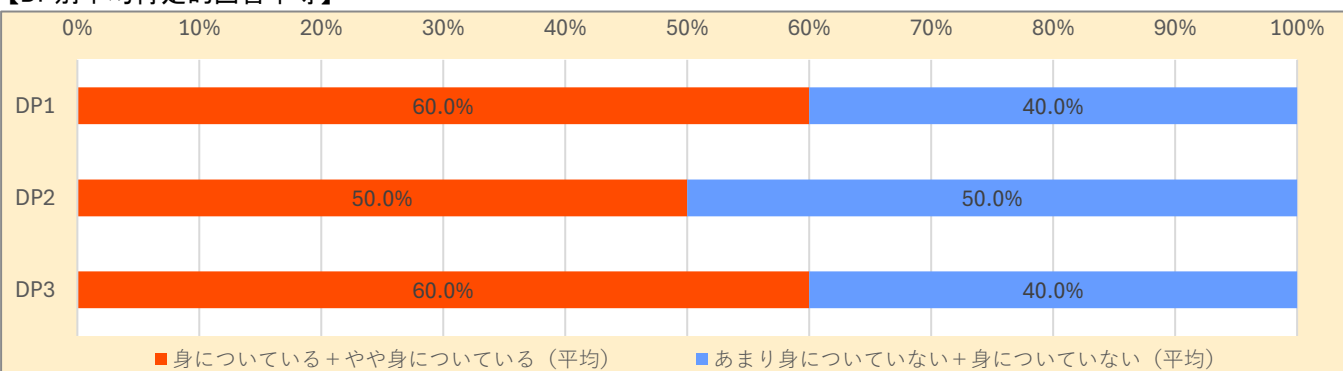
＜参考：デザイン学科 ディプロマポリシー＞

- DP1. 美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養を身につけ、共生社会の創造のため、人間と文化、社会と歴史、自然と環境、外国語などに関する幅広い教養を身につけていること。（知識・技能）
- DP2. 他者との関係において、対話に関わる表現能力や論理的かつ創造的思考力を働かせ、直面する課題解決のための判断力を身につけていること。（思考力・判断力・表現力等）
- DP3. 制作・研究について高い意欲と幅広い関心をもち、社会の中で自らの課題に主体的に取り組むことができ、地域や国内外で、人々と協同しその解決と達成に積極的に関わっていく高いコミュニケーション能力を身につけていること。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



＜所見＞

デザイン学科卒業生に対する企業等の評価では、学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は40.0%～80.0%となった。項目別では、「主体性」が80.0%と最も高く評価された一方、「判断力」「創造的思考力」「問題解決力」は40.0%と、他の項目と比較して低い結果となった。

また、DP別平均肯定的回答率はそれぞれ50.0%～60.0%となっており、全てのDPで一定の評価が得られた。

以上のことから、企業等は、本学のデザイン学科卒業生が学科DPで示す能力を一定程度身につけていると評価されており、特に主体性について高い評価が得られた。また、専門知識及び専門技能についても一定の評価が得られていることから、デザインに関する専門性について企業等から評価されていることがうかがえた。このように、デザイン学科DPで示す資質・能力を備えた卒業生が企業等から評価されていることは、デザイン学科が育成を目指す人材が社会のニーズに一定程度合致していることを示しており、デザイン学科の教育目的に照らした教育の質保証の一助となるものと考えられる。

【建築学科】

- ・企業で働く建築学科卒業生を対象にした学科DPの身につけ度についての調査。

<調査結果における分析(一部抜粋)>

- ・学科DPに対応する以下の質問項目を設定している。

建築学科…(全13問)

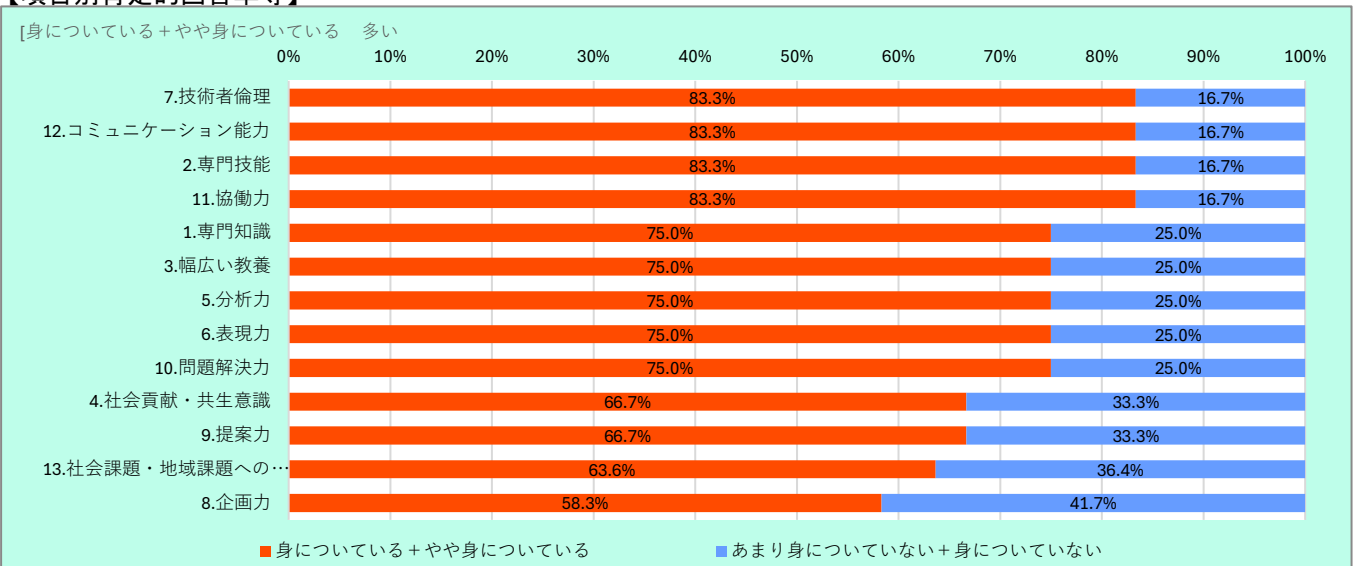
1. 専門知識 (DP1)	2. 専門技能 (DP1)	3. 幅広い教養 (DP1)	4. 社会貢献・共生意識 (DP1・DP3)	5. 分析力 (DP2)
6. 表現力 (DP2)	7. 技術者倫理 (DP2)	8. 企画力 (DP2)	9. 提案力 (DP2)	10. 問題解決力 (DP3)
11. 協働力 (DP3)	12. コミュニケーション能力 (DP3)	13. 社会課題・地域課題への関心 (DP3)		

- ・回答項目は「身につけている」「やや身につけている」「あまり身につけていない」「身につけていない」の4項目。
- ・集計結果に対して、肯定的回答率(「身につけている」及び「やや身につけている」の合計割合)を用いて、学科DPで示す能力の修得状況を分析する。

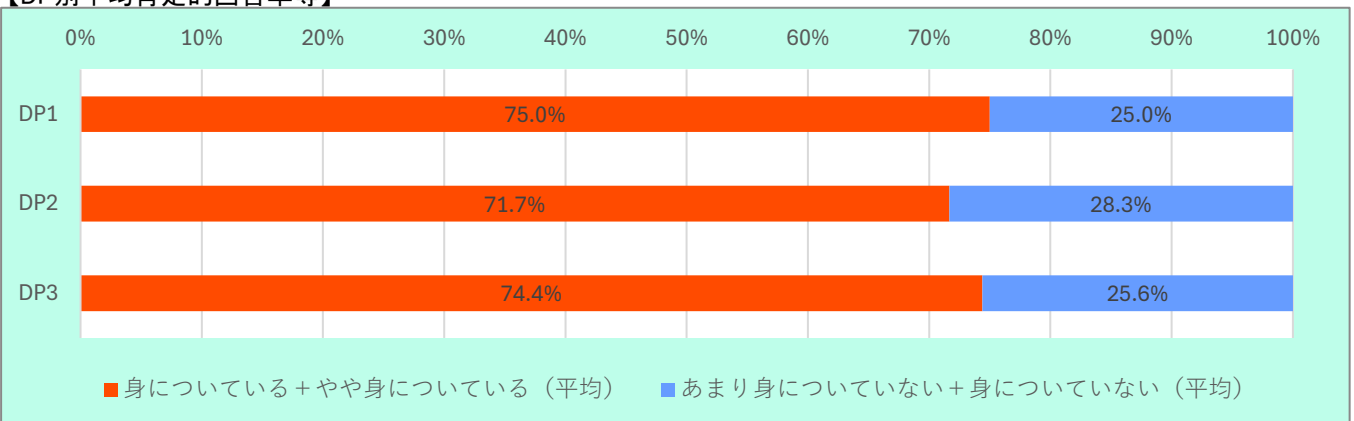
<参考: 建築学科 ディプロマポリシー>

DP1.	次代の可能性を切り開き共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築学に関する専門知識や技能を基礎に、自国の文化や社会環境、地域共生などに関する幅広い教養を身につけている。(知識・技能)
DP2.	建築のプロフェッショナルとして、技術者倫理を基礎に企画力・提案力・分析力・表現力など、広く社会に通用する人間力を身につけている。(思考力・判断力・表現力等)
DP3.	地域や共生社会に関する様々な問題に関心を持ち、「建築デザイン」と「ものづくり」を通して、さまざまな人と協働して問題解決に真摯に向き合う態度とコミュニケーション能力を身につけている。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【項目別肯定的回答率等】



【DP別平均肯定的回答率等】



<所見>

建築学科卒業生に対する企業の評価では、学科DPに対応する各能力の肯定的回答率は58.3%～83.3%となった。項目別では、多くの項目で7割以上の肯定的回答率が得られ、特に「技術者倫理」「コミュニケーション能力」「専門技能」「協働力」が83.3%と最も高く評価された。一方、「企画力」は58.3%と最も低い結果となった。DP別平均肯定的回答率はいずれの項目においても7割前後の肯定的回答率が得られた。以上のことから、企業等は、本学の建築学科卒業生が学科DPで示す能力を概ね身につけていると評価しており、特に技術者倫理、専門技能、コミュニケーション能力及び協働力について高い評価が得られた。また、分析力や問題解決力、社会課題・地域課題への関心についても一定以上の評価が得られていることから、建築分野における専門性に加え、地域や社会の課題解決に関わる能力についても企業等から評価されていることがうかがえた。このように、建築学科DPで示す資質・能力を備えた卒業生が企業等から評価されていることは、建築学科が育成を目指す人材が社会のニーズに合致していることを示しており、建築学科の教育目的に照らした教育の質保証の一助となるものと考えられる。

Q5 星槎道都大学出身者の問題解決力を、他の社員（職員）様と比較して評価してください。

- ・ アセスメントテスト「GPS-Academic」で測定される「問題解決力」における各要素の身につき度についての調査。

＜調査結果における分析（一部抜粋）＞

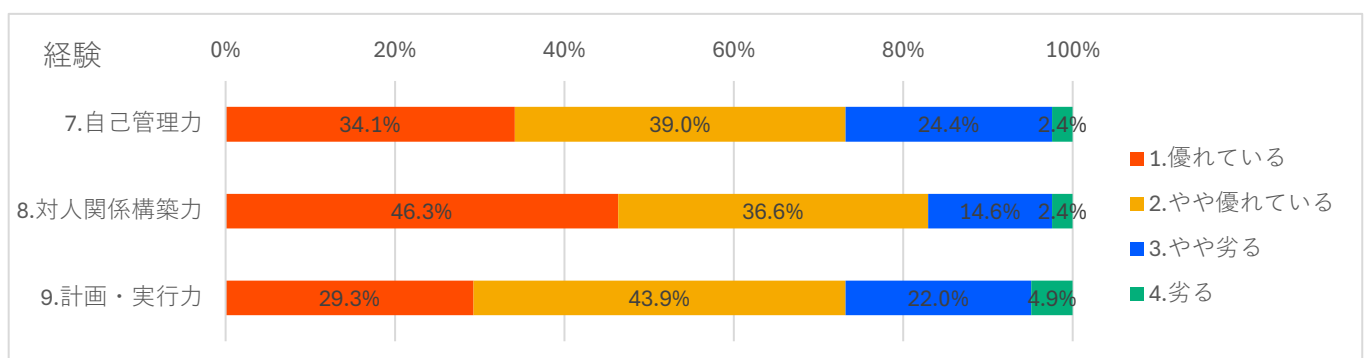
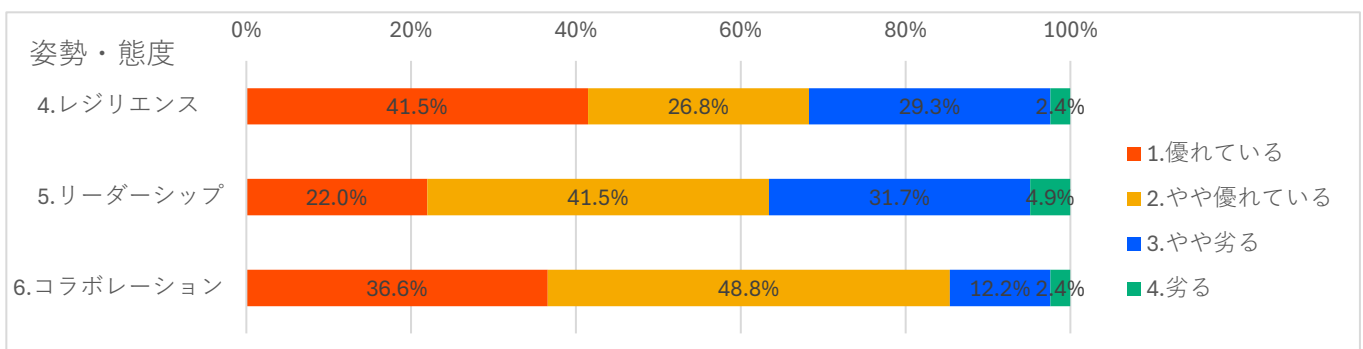
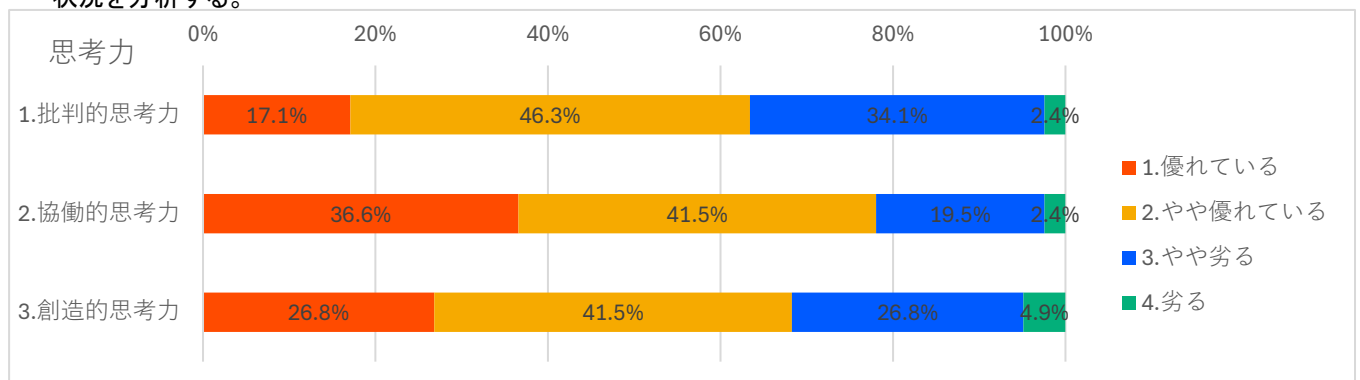
- ・ GPS-Academicで測定される「思考力」・「姿勢・態度」・「経験」における各要素を基に以下の9個の質問項目を設定し、それぞれのグループごとに分類する。

思考力	
1	批判的思考力 (情報を整理・分析し、多面的かつ論理的に考える力)
2	協働的思考力 (他者の意見を取り入れながら考え、より良い結論を導く力)
3	創造的思考力 (新しい発想や解決策を生み出す力)

姿勢・態度	
4	レジリエンス (困難や失敗に直面しても前向きに対応する力)
5	リーダーシップ (周囲に働きかけながら目標達成に取り組む力)
6	コラボレーション (多様な人々と協力して物事に取り組む力)

経験	
7.	自己管理能力 (目標に向けて継続的に取り組み、自身を管理する力)
8.	対人関係構築力 (他者を理解し、良好な人間関係を築く力)
9.	計画・実行力 (計画を立て、実行し、結果を振り返り改善する力)

- ・ 回答項目を「優れている」「やや優れている」「やや劣る」「劣る」の4項目に設定している。
- ・ 集計結果に対して、肯定的回答率（「優れている」及び「やや優れている」の合計割合）を用いて、問題解決力の修得状況を分析する。



＜所見＞

評価の結果、思考力・姿勢・態度・経験のいずれのグループにおいても全ての項目で肯定的回答率が6割を超えており、本学卒業生の問題解決力は概ね良好に評価されていた。

各グループの中で最も肯定的回答率（「優れている」及び「やや優れている」の合計割合）が高いのは「協働的思考力」、「コラボレーション」、「対人関係構築力」の3つで、これらのことから本学卒業生は、他者と協力しながら課題解決に取り組む力や良好な人間関係を構築する力について特に高く評価されていることがわかる。

以上のことから、企業等は本学卒業生の問題解決力を構成する各要素を概ね高く評価しており、特に多様な人々と協働しながら課題解決に取り組む能力について高い評価を得ていることが確認された。

Q6 貴社(団体)で求められる人材像に照らして、本学でどのような教育が必要だとお感じになりますか？(自由回答)

- ・ 企業で求められる人材像に照らして本学で教育を望む能力についての調査。

<調査結果における分析>

- ・ 貴社(団体)で求められる人材像に照らして本学に期待する教育内容について、自由記述形式で回答を収集した。
- ・ 自由記述回答は30件であった(うち「特になし」等を含む)。
- ・ 回答内容を分類した結果、以下の傾向がみられた。

<回答内容(一部要約・抜粋)>

■コミュニケーション能力の育成…14件 ・ 傾聴力や伝える力、報告・連絡・相談の習慣化 ・ 自分の意見を適切に表現する力の育成 ・ 多様な人々と協働するための対話力の向上 ・ グループワーク等を通じたコミュニケーション能力の育成 ・ 社会人としての会話力や対人能力の向上	■主体性・行動力・学び続ける姿勢の育成…10件 ・ 失敗を恐れず挑戦する力の育成 ・ 意欲や積極性を高める教育 ・ 前向きかつ自発的に取り組む姿勢の醸成 ・ 自己研鑽や継続的な学習習慣の形成 ・ 環境の変化に柔軟に対応する力の育成
■協調性・チームワークの育成…10件 ・ 周囲と協力して物事に取り組む姿勢の育成 ・ 協調性を身につける教育 ・ 他者を受け入れ尊重する姿勢の育成 ・ 多様な価値観を持つ人々と協働する力の育成	■課題解決力・思考力の育成…7件 ・ 課題発見・課題解決力の育成 ・ 論理的思考力の向上 ・ 多面的な視点から物事を捉える力の育成 ・ 自ら課題を見出し改善へつなげる力の育成
■社会人基礎力の育成…6件 ・ 社会人としてのマナーや常識の習得 ・ 自己を客観的に捉え、自律的に行動する力の育成	■実践的学習機会の充実…5件 ・ 実社会との接点を増やす教育 ・ 現場経験を通じて学ぶ機会の提供
■専門知識・専門技能の向上…3件 ・ 専門知識や技術の習得 ・ 資格取得への意欲向上	■人格・人間性の育成…4件 ・ 謙虚さや素直さなどの人間性の育成 ・ レジリエンス(困難を乗り越える力)の育成

<所見>

自由記述回答では、「コミュニケーション能力の育成」に関する意見が最も多くみられた。また、「主体性・行動力・学び続ける姿勢」や「協調性・チームワーク」に関する意見も多く、自ら考え行動するとともに、他者と協働しながら課題解決に取り組むことのできる人材が求められていることがうかがえた。
このことから、企業等は専門知識・技能に加え、コミュニケーション能力や主体性、協働性などの汎用的能力を備え、実社会において主体的に行動できる人材の育成を本学に期待していることがうかがえた。

Q7 星槎道都大学に対するご意見やご要望等がありましたらご入力ください。(自由回答)

- ・ 本学への各種意見についての調査。

<調査結果における分析>

- ・ 総合的な本学への各種意見を、任意として自由記述形式で収集した。
- ・ 自由記述回答は24件であった(うち「特になし」等を含む)。
- ・ なお、個人情報の保護に関する法律および星槎道都大学学生個人情報保護規程に基づき、個人が特定される内容は割愛する。

<回答内容(一部要約・抜粋)>

■学生の資質・人材育成に関する評価・期待…6件 ・ 社会的基礎力の向上を引き続き推進していただきたい。 ・ 学生一人ひとりの才能や強みを伸ばしながら、コミュニケーション力や協調力、主体性など社会で活躍するための実践力を育成する教育を期待している。
■本学との連携・採用活動に関する要望・期待…8件 ・ 採用について情報交換できるような機会がございましたら、お声がけいただけると幸いです。 ・ 今後もインターンシップや採用を通じて、大学との連携を一層深め、地域福祉を支える人材の育成にともに取り組んでまいりたいと考えております。
■その他メッセージ等…3件 ・ 本学とのご縁を大切にしながら採用活動を進めていきたい。 ・ 採用活動への協力に感謝するとともに、今後も継続的な関係を希望している。

<所見>

意見・要望からは、早急な対応を要する重要な意見や改善要望はみられなかった。寄せられた意見からは、学生のコミュニケーション能力や主体性、協調性などの社会人基礎力の育成に対する期待や、本学との連携・採用活動のさらなる推進を望む意見がみられた。
これらの結果から、企業等は本学の人材育成に一定の評価を示すとともに、今後も継続的な連携を通じて地域や社会を支える人材の育成に取り組むことを期待していることがうかがえる。
なお、一部要望に関しては関連部署へ情報を共有し、各部署において対応を図っている。

以上